

防災塾・だるま

添付資料

No.	調査書対応項目	資料内容	ページ
1	1.連絡先／2.団体の概要	団体紹介リーフレット 規約	2～4
2	組織と活動計画	年間活動計画 役員名簿・プロフィール	5～6
3	2.取組概要（背景）	塾長挨拶（理念・活動方針）	7
4	2.取組概要（背景）	名誉塾長の思い出 活動の記録（退任記念誌）	8
5	3-(1) 情報収集・調査研究	被災地視察・防災街歩きのご案内	9～11
6	3-(2) 情報交換会・意見交換会	講座 談義の会・KU エクステンション講座紹介	12
7	3-(2) 情報交換会・意見交換会	活動実施記録資料（談義の会のあゆみ）	13
8	3-(3) 講座・人材育成	養成講座活動記録一覧 2006-2025	14
9	3-(3) 講座・人材育成	2019 年 養成講座 講義録（抜粋例）	15
10	3-(3) 講座・人材育成	2024 年 養成講座 講義録（抜粋例）	16
11	3-(4) 他機関連携・共同運営	ぼうさいこくたい 2023 Os-7 活動記録（提出資料）	17～18
12	3-(4) 他機関連携・共同運営	Os-7 実施実績 講演要旨・資料一覧（0914 版）	19～20
13	3-(4) 他機関連携・共同運営	（連携）かながわ・よこはま防災ギャザリング	21～22
14	3-(5) 地域・行政への提言	防災庁創設への市民提言（本文 PDF・）返信	23～26
15	3-(6) 教材公開	防災教育教材（J-DAG／雛形・チェックリスト等）	27
16	3-(6) 教材公開	旧 HP トップ（アーカイブ導線／移設案内）	28
17	取組の成果	談義の会 実施記録 延べ参加者数	29
18	取組の成果	HP アクセス統計 会員の声 総括的書籍公開編集	30

防災塾・だるまについて



「防災塾・だるま」とは

「防災塾・だるま」は、「災害の教訓を生かして、転んでも何度でも立ち上がる」という理念のもと、2006年に発足した防災ネットワークです。市民・研究者・大学・企業・行政など、さまざまな立場の人々が連携し、地域の防災力を高めることを目指しています。

活動の柱は、防災講演会「防災まちづくり談義の会」で、2024年には開催回数が200回を超えました。そのほかにも、定例会での情報共有、神奈川大学とのエクステンション講座、被災地への視察、他機関との連携支援など、多様な取り組みを行っています。

防災塾・だるま 規約（令和7年度改定）

（名 称）

第1条 この会は、「防災塾・だるま」（以下「本会」という）と称する。

（事務局）

第2条 本会の事務局を塾長宅に置く。（〒143 東京都大田区大森西 2-30-9-1109）

（目 的）

第3条 本会は、あらゆる防災活動を通じて会員相互の防災力向上を図るとともに、防災に関わる情報共有化のためのネットワークを構築し、地域社会の防災まちづくりに貢献することを目的とする。

（事 業）

第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 防災まちづくりに関する情報の収集及び調査研究
- (2) 会員相互の防災まちづくりに関する知識向上のための情報交換会又は意見交換会の開催
- (3) 防災まちづくりに関する講座またはイベント等の開催
- (4) 他の機関・団体等の防災まちづくりに関する講座やイベント等への支援、又は共同企画並びに運営等
- (5) 防災まちづくりに関する調査研究結果等の地域及び行政等への提言
- (6) その他、本会の目的達成のために必要な事項

（会員の種類及び資格）

第5条 本会の会員は、次の2種とする。

- (1) 正会員 機関・団体又は地域等で防災まちづくりに関する調査・研究或いは実践活動をしている者、若しくは防災まちづくりに関する意識と興味を持ち、今後防災まちづくり活動を実践しようとする者で、本会の趣旨に賛同して入会した個人。
- (2) 賛助会員 本会の趣旨に賛同し、活動を支援するために入会した個人及び団体。

（会 費）

第6条 会員は、次に定める年会費を年度初めに納入しなければならない。

正会員	2,000 円
郵送会員	4,000 円（郵送費用含む）
学生会員	免除
賛助会員	一口：5,000 円（一口以上）

2.退会の場合、既納の会費は返金しない。

3. 年会費の納付が1会計年度以上滞った場合に、督促を行った上で滞納が続いた場合は、退会の意思表示と見なす。

（役員等）

第7条 本会を円滑に運営するため、次の役員を置く。

- (1) 名誉塾長 1 名
- (2) 塾長 1 名
- (3) 副塾長 5 名以内
- (4) 会計 2 名以内
- (5) 総務 2 名以内
- (6) 理事 20 名以内(塾長・副塾長・会計・総務を含む)
- (7) 監査 2 名以内

2.役員会の議決権は理事にある。

3. 理事、監査の選出は、会員の互選とする。
4. 塾長、副塾長ほか理事の役職は、理事の互選とする。
5. 理事・監査の任期は2年とし、再任は妨げない。
6. 本会が必要とする助言及び支援を受けるため、名誉塾長、顧問及び相談役を置くことができる。
(役員等の職務)

第8条 役員職務

- (1) 塾長 本会を代表し、会務を総理する。
- (2) 副塾長 塾長を補佐し、塾長に事故ある時は代行する。
- (3) 会計 会計事務および資産の管理。
- (4) 総務 会員管理および各種活動の庶務的対応。
- (5) 理事 理事は本会運営に参画する。
- (6) 監査 会計、資産状況、及び業務を監査する。

2. 名誉塾長・顧問・相談役の業務

- (1) 名誉塾長 本会設立の理念を代表し、本会運営の助言・提言・支援を行う。
- (2) 顧問 本会の求めに応じて、役員会に出席し助言・提言を行う。
- (3) 相談役 必要に応じて、役員会に出席し助言・提言を行う。

(会議等)

第9条 本会は、総会、役員会、定例会、その他必要な会議を行う。

2. 総会は、年度当初の2ヶ月以内に開催し、下記の主要事項について審議し、議決が必要な事項については正会員出席者の過半数をもって決する。

- (1) 規約の変更
- (2) 活動報告及び収支決算
- (3) 活動計画および収支予算
- (4) 役員の選出
- (5) その他の重要事項

3. 役員会は、総会付議事項、定例会付議事項などについて協議すると共に、本規約に定めのない事項について審議する。

また、必要に応じて顧問および相談役の参加を求め、助言を受けたり、相談したりすることが出来る。

4. 定例会は、会員相互の情報の共有・意見交換を行うため、原則として隔月で行う。また、総会の議決事項以外で議決が必要な事項は、定例会で審議し正会員出席者の過半数をもって決する。

5. その他必要な会議は、議決権はないが、随時行うことができる。

9. 塾長は、必要に応じて臨時の総会を召集することができる。

(その他)

第10条 本会の運営経費は会費、事業収入、補助金並びに寄付金等をもってこれに充てる。

2. 本会の事業年度及び会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間とする。

附 則

本規約は、平成18年8月1日から施行する。

本規約の改定は、平成22年4月1日から施行する。

本規約の改定は、平成23年4月22日から施行する。

本規約の改定は、平成25年4月26日から施行する。

本規約の改定は、令和3年5月28日から施行する。

本規約の改訂は、令和4年5月26日から施行する。

本規約の改訂は、令和7年5月15日から施行する。

年間活動計画

📅 2025年5月18日 🕒 2025年6月2日 🌐 darumajin-daruma

2025年度「防災塾・だるま」年間活動予定			
月	日時・会場	活動内容	◎連携・共催事業
5月	15日(木) 関内第一 研修室 13:30～ 通常総会 15:30～ 基調講演会	第17回通常総会 基調講演会（第204回談義の 会） 神奈川新聞論説委員 渡辺渉氏	HP更新 かながわ防災ギャ ザリング総会（5月 28日）
6月	19日(木) 13:30～ 県 サボ講義室2	役員会	防災ギャザリン グ？
7月	10日(木) 県サボ講 義室1 13:30～ 定例会 15:00～ 第205回談 義の会	定例会① 第205回談義の会 「地域防災拠点開設のポイン ト」 講師：和泉禮子氏（横浜市東希 望が丘小学校地域防災拠点委員 会委員長）	かながわ防災ギャ ザリング説明会・ 講演会（7月12日）
8月	28日(木) 関内第二 研修室 13:30～ 役員会	役員会	
9月	18日(木) 県サボ講 義室1 13:30～ 定例会 15:00～ 第206回 談義の会	定例会② 第206回談義の会 「福祉施設のBCPを考える」 講師：宮本英治氏（災害対策研 究会・地域安全学会名誉会員）	かながわ防災ギャ ザリング・参加者 説明会
10月	16日(木) 13:30～	役員会	
11月	20日(木) 13:30～ 定例会 15:00～ 第207回 談義の会	定例会③ 第207回談義の会 講師：小嶋洋氏（相模原防災マ イスター）	
	22日(土) 横浜市民 防災センター	防災塾・だるま出展	かながわ・よこは ま防災ギャザリン グ 防災減災フェアー 本番
12月	6日(土) & 13日(土)		神奈川大学エクス テンション講座
	18日(木)	役員会	
1月	22日（木） 13:30～ 定例会 15:00～ 第208回 談義の会（終了後防 災サロン新年会）	定例会④ 第208回談義の会（防災コンテ ンツ交流会）	
2月	19日(木) 13:30～ 第 209回談義の会	第209回談義の会 「福祉としての防災を考える」 講師：田中晃氏（防災塾・だる ま理事）	
3月	19日(木) 13:30～	役員会	
4月	16日(木)	定例会⑤ 第210回談義の会 「関東大震災被災地を歩く～山 手隧道と山手の坂道の震災遺構 から学ぶ～」	

2025年度「防災塾・だるま」役員名簿 プロフィール

No	役職	氏名	所属・役職等	地域・分野	「防災塾・だるま」での学びやネットワークを還元させている活動
1	塾長	鷺 山 龍 太 郎	防災塾・だるま 塾長 未来防災NET	学校関係 東京都 横浜市港北区等	元小学校長として学校と地域の連携を構築。防災塾・だるまで得た知見を各種講演・マニュアル等資料作成に反映。書籍「命を守る防災の教科書」執筆は防災塾・だるまでの学びを集大成。
2	副塾長	山 田 美 智 子	ひらつか防災まちづくりの会 代表	平塚市	「防災塾・だるま」での学びや知見を平塚市の市民活動団体「ひらつか防災まちづくりの会」での活動に活かしている。地形からの災害リスクを啓蒙。
3	副塾長	高 松 清 美	南区災害ボランティアネットワーク	災害ボランティア	災害ボランティアのリーダーとして、被災地経験も豊富。各種団体との連携構築。ボランティア支援。かながわ・よこはま防災ギャザリング実行委員会委員長を多年にわたって務める。現副委員長
4	副塾長	樋 口 誠	まちづくりネットワーク緑 代表 みどりーむ運営委員会会長	横浜市緑区・まちづくり	防災塾・だるまで得た知見を横浜市緑区の市民活動支援センター（みどりーむ）に還元。毎年「みどりーむ防災・講座」を開催し、地域への意識啓発を行っている。
5	副塾長	早 川 雅 子	都筑区災害ボランティアネットワーク	災害ボラ 子ども会	マンション理事長としてマンション防災に努める。各種団体との連携構築。総務的支援を行う。
6	理事	田 中 晃	拠点運営委員 元福祉施設第三者評価調査員	防災と福祉の融合	電力会社勤務時代に経験した災害の教訓やマニュアルづくりをベースに、防災塾・だるま活動に参加。福祉の施設第三者評価により、福祉と防災の融合、トップの理念と職員の行動が利用者の幸福につながる支援活動をしてきた。
7	理事	田 中 喜 世 美	防災塾・だるま 理事	神奈川区 災害ボラ	自治会の役員、地域防災拠点運営委員として、地域防災に貢献。
8	理事	増 田 佳 恵	はやま防災ネットワーク	葉山町	葉山地区で防災ネットワーク活動を展開。
9	理事	原 田 剛	市民活動団体QQ防災クラブ	県西部 秦野市等	多くの団体の方がそれぞれの場所で活動している内容を持ち寄って、総合的な防災検討ができる場が醸成できているのが素晴らしいと感じている。 具体的には、本団体としては「小電力トランシーバーの通話距離延長」や「建築士会の水害対策」などのノウハウ習得が大きく、逆に「救命ボックス」や「感震式ブレーカー遮断器の自作アイデア」などを提供している。
10	理事	松 島 宗	片倉町大丸町内会長	自治会等	神奈川区自治会長として、安否確認体制を構築。防災塾・だるまでの学びを実践し、自身の地区での実践を発表。
11	理事	伊 藤 郁 夫	元ヤマトプロテック株式会社、マンション管理組合防災委員会委員長、(公財)ボイスカウト日本連盟災害対応タスクチーム	防災システム企画提案 マンション防災提案 防災計画学会等	永年、防災システム・機器メーカーに勤務し行政等の法令改正委員会に従事してきました。自宅マンション防災マニュアル作成・防災訓練実施、耐震診断試験を実施しクリア。能登半島地震後、被災地支援を続けています。
12	理事	土 谷 美 智 代	環境関係	二宮町	地域の防災委員として、行政と連携した活動を展開。エクステンション講座を受講して入会。
13	理事	中 根 圭 介	ユーティリティ・ソリューションズ	厚木市	水処理エンジニアとして、避難所断水時に生活用水を確保することで衛生環境を改善し、災害関連症を低減する啓蒙活動を全国で実施。能登被災地には避難所4ヶ所に生活用水供給装置を持ち込んで長期支援を行った。
14	幹事	高 橋 徳 美	横浜市議員 横浜市長選候補	金沢区	元横浜市議員。防災塾・だるま創始期から運営にかかわり、政治と防災市民団体とつなぐ役割を果たしてきた。
15	名誉塾長	荻 本 孝 久	神奈川大学名誉教授 かながわ人と智をつなぐ防災・減災ネットワーク	神奈川大学 学術研究者	工学部建築学科において教育・研究に携わる。神奈川県地震被害想定調査委員、東京都地域危険度調査委員、学術専門分野は地震工学・都市防災工学、「防災塾・だるま」設立に携わる。その他、防災関連NPO副理事長。
16	顧問	佐 藤 孝 治	神奈川大学名誉教授		
17	顧問	上 原 美 都 男	横浜市 危機管理監(初代)		
18	顧問	中 川 和 之	時事通信社		
19	顧問	杉 原 英 和	かながわ人と智をつなぐ防災・減災ネットワーク		
20	顧問	山 本 俊 雄	神奈川大学名誉教授		
21	顧問	荒 巻 照 和	(前歴)横浜市磯子消防署長(消防正監)		
22	顧問	落 合 努	神奈川大学助教		

3	2.取組概要（背景）	塾長挨拶（理念・活動方針）	Web	新 HP	https://bosaijuku-daruma.com/jukuchou/
---	------------	---------------	-----	---------	---

「防災塾・だるま」の創設と防災まちづくり談義の会 200 回のあゆみ（新HP）

塾長 鷲山 龍太郎

「防災塾・だるま」が発足したのは、阪神・淡路大震災から 11 年を経た 2006 年のことです。本塾は、都市型自然災害の現実と正面から向き合い、ハードとソフトの両面からの対策が必要であるという、神奈川大学荏本孝久教授の理念に基づいて設立されました。

この理念に共感した会員たちは、学びを深め、共有し、その発展と継続のために日々尽力してきました。防災塾・だるま発足の経緯については、『防災まちづくり談義の会 100 回のあゆみ』をご覧ください。

主な災害への対応

以来、「防災塾・だるま」は数多くの災害に向き合い、対応してきました。そして東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨、能登半島地震など、さまざまな災害に関する知見と経験を積み重ね、蓄積してきました。こうした活動の中で、私たちは常に「実践知」としての防災を探究してきました。

防災まちづくり談義の会 200 回記念を迎えて

2024 年 11 月、「防災まちづくり談義の会」は記念すべき 200 回を迎えました。これを機に、会員アンケートや有志による発表を通じて過去の活動を振り返り、その叢智を集約する機会としました。また、これまでの歩みを振り返るとともに、今後の防災まちづくりの展望を共有する貴重な場となりました。

防災庁設置準備室の設置と重なるタイミング

奇しくも同じ 2024 年 11 月、石破政権の提唱により「防災庁設置準備室」が発足しました。

その基本方針には、「防災塾・だるま」の理念と通じる部分も多く、大きな期待を寄せています。

今後の展望

「防災塾・だるま」では、地域での活動、被災地支援ボランティア、専門家による災害への多角的な考察など、多様な視点から防災に取り組んできました。今後もその知見を集約し、防災庁設置に向けた具体的な指針に反映させていきたいと考えています。

その一環として、2025 年 4 月には提言書を定例会にて取りまとめ、合意形成の上、防災庁設置準備室に提出する方針です。

こうした活動を通じて、「防災まちづくり談義の会」200 回分の学びが、2026 年の防災庁創設に向けた具体的な提言として結実することを目指しています。

謝辞

本アーカイブを振り返るにあたり、本会を創設し導いてくださった荏本孝久名誉塾長、ご助言いただいた顧問の皆さま、貴重なご講義をいただいたすべての講師の皆さま、多大なるご努力をいただいた池田邦昭元副塾長はじめ歴代の役員の皆さま、そして共に活動を支えてくださった全ての会員の皆さまに、心より感謝申し上げます。（2025 年 4 月）



能登半島地震 地盤隆起した漁港にて



東日本大震災 石巻市立大川小学校跡にて

4	2.取組概要（背景）	活動の記録（退任記念誌）トップ	We b	旧 HP	https://darumajin.sakura.ne.jp/17katsudoukiroku_enomoto_taininkinenshi/index.html
---	------------	-----------------	------	------	---

防災塾・だるま」活動の記録～荏本孝久先生退任記念誌～から

「防災塾・だるま」の思い出

名誉塾長 荏本孝久

2005年（平成17）に設立された「防災塾・だるま」は、15年間で皆さんと一緒に歩み続けてきました。その間の活動については本誌の中に記録されています。15年間は言葉の3年間くらいは、従来から続けてきた活動の課題が積み重なってきて、会員の方々の意思疎通や活動方針の一元化など「防災塾・だるま」としてのまとまりに苦慮して、如何に新しい「防災塾・だるま」の体制に変えていくかということに思いを巡らせてきました。そして、令和3年5月の総会で新しい体制が誕生して、ホットしているところまで。



さて、この15年間に及ぶ活動で思い出するのは、何故「防災塾・だるま」のような活動を始めたかと思ったか、その切掛けが原点になります。

今回退任を志すに当たって、新塾長の岡山さんから「だるま通信」を定期的に発行するので、「名誉塾長の部屋」というページを割り、私が防災研究や地域防災の活動に込めてきた思いを書き綴って欲しいというお話を頂き、随時原稿を書き進めて頂いていますが、そこに書くこととされていることを雑然と考えながら、幾つかのポイントとして先に書いてみたいと思います。

まず、「防災塾・だるま」の活動を始めたと思ったことは、1つは「防災は行政だけの問題ではなく、市民一人ひとりに関係する問題で、その結果は災害が起こってみたいと明確に分る。」と諸先生・先輩に言われていたことと、1995年（平成7年）の阪神・淡路大震災の被災現場を訪れて、「被害を受けた住民の方々は、自分達がどのようなリスクのある場所で生活していたのかという認識を殆ど持っていなかった。」ということがはつきりと理解できたことと、土木・建築の分野で研究を進めるには防災の知識、とくに地域の災害リスクの特徴について、地域の住民と一緒に理解し、その理解を防災情報として共有していかなければ、本当の防災にはならないと思ったからでした。

15年間の中で地震や洪水、火山噴火など多くの災害が発生し、防災に関わる意識が変化してきています。今の経済社会の環境の中で、災害を受けると生活も人生も一変してしまうという危機感が強まってきたこととあり、現在の新型コロナウイルス感染症の拡大により、自分の命が危機に至ると言う切実な状況も大きく影響しているのではないかと考えます。



Ⅲ だるまの活動概要

1. 活動概要

【1】発足の経緯

① 「防災塾・だるま」の夜明け前

2005年6月神奈川大学学生学習講座が、神奈川県立大学「地域・防災・まちづくり」のテーマで実施されました。この時、会員の池田さんが7回の内1回を、横浜市内の「ネットワーク」の繋がりで、講師に指名されました。防災に関心を持っていたとしても、それまでに何の実績もない素人を指名するとは相当困った！ 最低限のレベルは確保された講座を作ろうと協力依頼したのが、同じ町内の森下さん。日本生産性本部で社会人教育をしていたプロ、もう一人も生涯学習に関心の深い中島さんでした。何回かの準備会を経て講座資料を作成することができました。

終了後、地元の伊東さん、柿田さん、森下さんのほか中島さんなど、受講者数人が発起人となり、「防災まちづくり協議会」を発足させたのが始まりです。

② 素人の集団出陣進行

講座終了後、防災について学びたいが「会場・教材・指導者」をどうすればよいかわからないところ、講師の一人であった荏本先生が声を上げてくれました。そして、神奈川大学の利用、教材、必要に応じてサポートするとの発言に皆さん「安心」「スタートしましょう」と、区民大学講座終了後6月より会合が始まりました。

月例会は毎月1回平日の夜間に10名前後、小さな会議室でのスタートでした。教材は、先生がNHKのビデオテープを用意してくれました。それを皆さんと視聴し意見交換するところから、活動が始まりました。地域での防災活動報告、行政の取組み、被災地のボランティア活動者と自由に意見交換し、情報を共有しました。荏本先生との出会いがだるま発足の原点になったと思います。

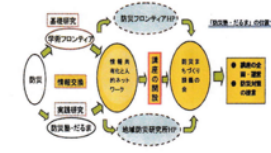
【2】荏本先生の防災理論の実践舞台としてだるま発足

荏本先生には、阪神淡路大震災直後の現場の体験から10年目、「大学の研究活動を理論化し、市民活動と共に歩みたい」との意向があり、我々との合意の上、研究活動と地域活動の両輪で進めることにしました。

防災塾・だるまは「市民と共に七転び八起き」からネーミングしました。会の名称は「防災まちづくり協議会」をとし、その後「楽しむ会」では不適当との意見があり、名称を「防災まちづくり協議会」に、略称「協議会」としました。

活動の基本は「自分の命の大切さ」「助け合い」「行政と市民のギャップを埋める」としました。防災を学習する集まりから、「七転び八起き」の精神で地域防災力向上に役立てる団体へと舵を切ることとし、「防災塾・だるま」（通称「だるま」）と命名しました。

震災現場からの教訓を得るため、現場の調査、阪神淡路大震災「1.17のつどい」への参加、被災地の方々と交流へと広げ、その成果を相互に意見交換し合いました。この活動を通して、市民活動を「楽しみながら続ける」「他人に迷惑を掛けない」とこととし、目的を ①活動を通じて相互の防災力向上を図る ②防災情報の共有化と人々の繋がりが基本的人的ネットワーク作り ③地域社会の防災まちづくりに貢献する、としました。



【3】活動紹介

① ホームページの開設

様々な活動を紹介するには、基本的には「誰もがいつでも閲覧できるホームページ（HP）」へのタイムリーで正確な情報提供

いずれにしても、防災に関する意識が高まってきたのは事実だと思います。しかし、反面防災の情報が多くなる機関・組織・団体から発信され、この細かい情報が世の中に氾濫している状況は、決して好ましい姿ではないとも思っています。

防災そのものは、生活する上で極めて基本的かつシンプルなものであると思っている自分にとっては、現状が、かえってその考えを惑わすものとしがたくなって、困惑しています。やはり、情報を自分で取捨選択する力が重要なんでしょう。

もう一つ述べておきたいことは、実践が極めて大切だということです。思い出の中には「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」という講座を「防災塾・だるま」のメンバーの方々と協働して10年以上継続して開催してきた事実があります。また特に大きな経験としては、実際の被災地を訪れて、地元の被災体験のある住民の方々と交流を持ったという体験は、何物にも変え難い防災意識の高揚に寄与したものだと思っています。そういう意味で毎年のように1月17日には神戸の「震災の集い」に参加してお話を聞いたり、神戸の町を歩いたり、また「新潟県中越地震」で被災した長岡市を訪ねてお話を伺ったり、2011年東日本大震災で被災した三陸沿岸の地域を訪問して、交流を深めたことは、大変有意義であったと思っています。もちろん毎月開催してきた「防災まちづくり協議会」で外部から多くの防災に関わる研究者の方々と地域で防災活動を続けて居られる方々に話題提供して頂いて、討論を積み重ねてきた実績も大きな宝となっています。



こういった多くの活動が、設立当時から大変に珍しい新しい取組みであったということで、社会でも注目されて大きな活動になってきたのではないかと考えています。私は、自分の講演会で話題提供をさせていただく際には、必ずと言って良いほど、「行政サイド」の防災対策と「住民サイド」の防災対策には大きなギャップがあり、我々のように国土が狭く災害が多発する環境では、「行政」「地域」と「住民」が連携して防災対策を進めていくことが大変重要で、まだまだその構図は完成していないと考えているとお話をしてきました。

以上書きましたように、いろいろな思い出がありますが、「防災塾・だるま」の理念としてきた「防災・減災情報の共有化と人的ネットワークの構築」という考え方はこれからも大切にしていきたいと思っています。

皆様には、これまで共通した思いをもって一緒に活動をお任せ頂き、本当に有難うございました。心から御礼申し上げます。これから続く「防災塾・だるま」の活動により、災害の影響の少ない社会が実現することを願っています。地道な活動は、必ず功を奏するもので。

が大変重要で。

2011年6月、防災塾・だるまの活動を紹介する専用のホームページを開設し、ノウハウが詰まった成果を一般公開、共有化を図っています。ホームページ委員会のメンバーは河上さん、佐藤（恵）さん、白田さん、中島さん、山田（高）さんの各氏で、作成役割分担を決めて進めました。

2021年2月1日までのヒット数累計は42748回、2020年度の年間閲覧数4392回でした。

多くの市民が私達の活動に参加し易いような企画作りを目指しています。

② 協議会の会等のチラシやカレンダー

協議会の会等のチラシやカレンダーは活動の宣伝と報告を紹介するための広報の一環と考えています。講師の方々にお会いしてお話を伺い、講義（協議会の）「タイトル・テーマ」「概要」「写真・イラスト」などを御覧いただいたり、他にもいろいろな資料を調べてイメージします。「講演を聞きたい、お会いして質問してみたい」と思ってもらえるように、イラストや写真を生かして、パランスや色使いを考え、ちょっとおしゃれで効果的なチラシになるよう作成（努力）しています。カレンダーでは、1年を通しての会員の活動の紹介をしています。（13ページで参照ください）

③ NHKテレビで紹介される！

荏本先生の地盤研究も進み、2017年4月9日21時に放映されたNHK-TV「NHKスペシャル 大地震・あなたの家はどうか～見えてきた「地盤リスク」～」への取材協力、現地案内と地盤構造の説明が行われました。



④ 新聞各紙や録音稿等の広報

朝日新聞マリオン等の掲載もありましたが、広報紙「録音稿」は、録音市を中心に約1万部が発行され、可能な限り掲載を続け

ています。だるま10周年記念誌は地盤紙のタウンニュースにも紹介されました。

神奈川新聞記者の渡辺渉氏の防災活動への様々なご協力は、感謝に堪えません。行事のPRから活動の紹介、解説、減災新聞、防災への啓発記事は貴重なものがあります。

⑤ 神奈川大の協力：チラシ掲示

だるま行事のチラシは、教授である荏本先生の承認を得て大学事務局に申請すると、神奈川大のキャンパスに掲示が可能となりました。

⑥ 「考える防災」の発行

会員の片山さんが防災への心がけを、親子市民活動支援センター連絡帳の「いそづな」をベースに「防災・減災は家庭と地域の取組みが決め手」として100のテーマにまとめ、現在活動時に配布し好評です。



【4】スムーズな運営、神大キャンパスから

市民活動の鍵の一つは、「定期的な活動の運営がスムーズに行える会場確保」が重要なポイントです。発足時より、荏本先生が神奈川大学内の会場を安定的に提供して下さいました。

最近の新型コロナウイルス禍で、大学での会場利用が困難になりましたが、神奈川大学には感謝の思いでいっぱいです。

【5】新型コロナウイルス感染症「COVID-19」禍による事業の停滞と新体制の対応

・2020年3月、新型コロナウイルス感染症の発生と蔓延により、会議室での会議の開催が困難になり、オンライン（Zoom）会議に詳しい会員の岡山さんの指導で、会議へのリモート参加の体制を作りました。会合は、机一つに1人のソーシャルディスタンスを保って参加できる会場となりました。

5	3-(1) 情報収集・調査研究	被災地視察・防災街歩きのご案内	Web	新 HP	https://bosaijuku-daruma.com/shisatu/
---	-----------------	-----------------	-----	------	---

「防災塾・だるま」では、実際の被災地や防災に関わる地域を訪れることで、現地の状況や教訓を直接学ぶ「被災地視察」や「防災街歩き」を積極的に実施しています。これらの活動を通じて、机上の学習だけでは得られない貴重な知識と経験を共有し、地域防災力の向上を目指しています。

被災地視察



過去の災害現場を訪れ、被害の実態や復興の過程を学ぶことで、災害の恐ろしさや備えの重要性を再認識します。例えば、阪神・淡路大震災の被災地である神戸市を訪れ、現地の防災施設や復興の歩みを視察しました。この視察では、神戸市役所防災展示室や人と防災未来センターを訪問し、震災の教訓を深く学びました。[だるまじん](#)

関連レポート（談義の会）

[第193回レポート 「横浜の関東大震災」を学ぶ街歩き](#)

[第175回レポート 阪神淡路大震災25年「被災地訪問報告」2020年1月15日～17日](#)

[第152回レポート 阪神淡路大震災から23年！神戸から学ぶ](#)

[第141回レポート 神戸から学ぶ 災害から22年目](#)

[第128回レポート 広島土砂災害被災地レポートと神戸市1.17「追悼のつどい」](#)

[第116回レポート 阪神淡路大震災から20年・・・「いなむらの火」](#)

[だるま10周年（活動の記録） 被災地から学ぶ](#)

第 116 回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成 27 年 2 月

日 時: 2015 年 2 月 27 日(金) 18:30-19:30

場 所: 神奈川大学 1 号館 301 号室

◆ 主 催: 防災塾・だるま

司 会: 早川さん

記 録: 紅林さん

◆ 談義の会参加者: 会員 22 名 一般 3 名 計 25 名 (敬称略)



荏本塾長の挨拶



小林さんの報告資料から抜粋

左: 神戸市・東遊園地 中: 稲むらの火の館 右: 広村堤防



テーマ: 『阪神淡路大震災から 20 年・・・いなむらの火』

～報告: 1. 17 つとい参加者報告～

報告: 池田・荏本・小林・武中・早川さん(会員)

左: 小林さん

中: 早川さん(司会)

右: 武中さん



いつどこで何が起こっても、被災。
言い伝えに学ぶ、子・孫へも。
大自然に逆らわず、共生。



★阪神・淡路大震災 20 周年事業の基本コンセプト
ー 1. 17 は忘れないー 「災害文化の発展」

『伝える』 『備える』 『活かす』

★神戸市長田町: 全く震災前の旧市街の面影が残っていない。商店街の減災対策が必要。

★芦屋市役所: 震災を職員として経験した方が 4 割。若人の教育が課題。3.11 の時、被災地到着日程を考慮して必要な救援物資を送る。

★神戸市役所: 学校などの避難所記録資料公開
児童による読み易い壁新聞等を見た。

★神戸大学: 「震災文庫」公開(利用しやすい形式)

★『1. 17 慰霊式典』神戸市東遊園地

溢れるほどの参加者が集う。小中学校の児童・生徒が先生の引率のもとで参加している様子が印象的であった。震災の記憶をどの様に残し、次の世代へ伝えていく事が大切な課題。

★『稲むらの火の館』と和歌山県広川町

昔の暮らしからも土砂災害や風水害の様子が伺えた。新たな脅威「東南海・南海地震」(津波の高さ 9M)への取組みも。



紙芝居《防災あかすきんちゃん》 児島 正氏(一般)

- ・被災時の大事な事を子供たちに伝えていく。
 - ・だるま塾での防災教育活動に活用を(だるま HP 掲載)。
 - ・濱口梧陵(ヤマサ醤油 7 代目)さんを紹介。
- 小泉八雲著作 `A Living God` (生ける神)

次回(第 117 回)のご案内 <10 周年企画第 1 弾>

- ・日時: 2015 年 3 月 27 日(金) 18 時~19 時 30 分
- ・会場: 神奈川大学 1 号館 308-1 号室
- ・体験「防災めくり」(片山晋氏開発の新しい防災ゲーム)
- ・講師: 片山 晋氏 (防災塾・だるま会員)



日時: 2023 年 10 月 20 日(金) 9:30-12:00

会場: 日本大通り駅改札口 9:30 集合

◆ 主 催: 防災塾・だるま 総括運営: 鷺山 司会: 山田(美) 記録: 田中(晃)

◆ 参加者: 12 名 相原講師 荏本 鷺山 伊藤(郁)、大西、落合、田中(晃)、高松、土谷、樋口、松島、山田(美)、(敬称略)

話題: 「横浜の関東大震災」を学ぶまち歩き (関内・日本大通りコース)

講師 相原延光氏 防災塾・だるま理事 関東学院中学校高等学校地学部コーチ

鷺山塾長挨拶

関東大震災は神奈川県下のプレート境界での直下地震で、横浜市域は壊滅した。市民が死とは紙一重だった関内の日本大通りを中心とした震災遺構ポイントを巡り、当時の出来事と時代の変遷を体感しながら歩きます。



■相原氏挨拶

「横浜の関東大震災」については、震災の記録が残る地域を現在でも災害リスクがあることを、地盤研究や被災体験談、非文字資料によりポイントを分析してきました。

特にまち歩きについては、馬車道と本町通り周辺の案内、建築士会会員への日本大通り周辺への案内、さらに「ぼうさいこくたい」の発表準備で内容を充実した結果、11 月の「KU エクステンション講座」を迎える準備ができました。今日はぜひ堪能していただきたい。



■防災まち歩きルートのご案内

テーマやストーリー性から、次の 5 点から関内(日本大通りルート)を選別しました。

A: 中村川右岸: ①横浜中華街から山手の台地へ ②山下町から横浜公園へ

B: 関外と関内: ③馬車道、日本大通り、横浜公園 ④元町と山手の崖

C: 大岡川左岸: ⑤馬車道から伊勢山、御所山

■訪問地

- ①横浜市開港記念会館 1917 年 地上 36mSRC 建築、②開通合名会社煉瓦建築遺構
- ③ 横浜税関(海浜) ④ 大棧橋(海浜) ⑤ 神奈川県測候所跡地(海浜)
- ⑥ 開港広場(砂嘴) ⑦ 横浜開港資料館(砂嘴)(旧英国領事館) ⑧ 日本大通り(砂嘴)
- ⑨ 露亜銀行 1921 年 RC 建築 ⑩ 横浜居留地 48 番煉瓦造遺構(1883 年建築旧モリソン商会跡)
- ⑪ 山下居留地遺跡調査解説遺構(砂嘴) ⑫ JALCITY ホテル(砂嘴)(旧ドッドウェル商会跡地・O. M. ブール氏事務所) ⑬ 旧居留地 90 番跡 ⑭ 消防救急発祥の地(第二消防署貯水槽煉瓦遺構)
- ⑮ 旧三井物産ビル 1911 年(地上 3 地下 1 日本最古 RC 建築(砂嘴))
- ⑯ 横浜地方裁判所慰霊碑(砂嘴とスワンプ境界) ⑰ 衣紋坂跡(スワンプ: 沼地・湿地埋立地)
- ⑱ 横浜公園・プラントン彫像(スワンプ) ⑲ 庭園・横浜公園震災記念碑・横浜球場 南西端

◆細目 第 193 回談義の会の「まち歩きメモ」に詳細の説明があり、ご利用ください。

6	3-(2) 情報交換会・意見交換会	講座 談義の会・KU エクステンション講座紹介	Web	新 HP	https://bosaijuku-daruma.com/
---	-------------------	-------------------------	-----	------	---

防災講座

[ホーム](#) / 防災講座

「防災塾・だるま」では、地域の防災力向上を目的として、多彩な講演会や学習会を開催しています。主な取り組みとして、「防災まちづくり談義の会」と「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」をご紹介します。



防災まちづくり談義の会

「防災まちづくり談義の会」は、地域の防災に関心を持つ方が集い、知識や経験を共有する場です。毎月開催され、多様なテーマで専門家や実践者を招いた講演、参加者同士のディスカッションを行っています。これにより、地域防災の最新情報や実践的な知識を得ることができます。

多様な専門家、実践者による情報提供による防災まちづくり談義の会は2024年で200回を突破。

そのアーカイブは未来の防災を模索するためのデータベースです。

[👉 防災まちづくり談義の会アーカイブ](#)



神奈川大学エクステンション講座 実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座

神奈川大学と連携し、「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」を開催しています。この講座は、首都直下地震や南海トラフ巨大地震、集中豪雨災害などに備え、「自分たちのまちは、自分たちで守る」ための考え方と具体的な事例を学ぶことを目的としています。地域の防災・減災の仕組み構築と定着化に取り組む人材の育成を目指しています。[トップ](#) | [一般社団法人 神奈川県建築士会](#)

この講座は、以下のような方におすすめです。[トップ](#)

- これから自主防災組織の立ち上げをスタートする方
- さらなる実践力の向上を目指したい経験者 [トップ](#)
- 防災・減災に関心をお持ちの方 [トップ](#) |

受講を通じて、地域防災のリーダーとしてのスキルと知識を身につけることができます。

[👉 神奈川大学エクステンション講座アーカイブ](#)

7	3-(2) 情報交換会・意見交換会	活動実施記録資料 (談義の会のあゆみ) 抜粋	PDF	旧 HP	👉防災まちづくり談義の会アーカイブ一覧
---	-------------------	---------------------------	-----	---------	-------------------------------------

「防災・まちづくり談義の会」
第23回～200回

活動の記録
2007年4月～2024年11月



防災塾・だるま「防災まちづくり談義の会」活動記録一覧

2007年度(平成19年度)「防災まちづくり談義の会」活動					
日付	回(通算)	防災まちづくり談義の会	講師・参加者等		
2007年 4月25日	第23回	1 アメリカ、メキシコ防災事情 2 能登半島被災地活動の記録	*荏本 孝久氏(神奈川大学 工学部 教授、防災塾・だるま 塾長) *植山 利招氏(川崎市災害ボランティアネットワーク)		
5月23日	第24回	かながわの国民保護計画	*杉原 英和氏(神奈川県 安全管理局)		
6月17日	第25回	2周年記念行事 個人情報保護法 ～災害時における要援護者対策について～	*石神 猛氏(神奈川県保健福祉部 健康危機管理班)		
7月25日	第26回	講演「緊急地震速報」	*竹中 潤氏(横浜地方気象台 防災業務課 東海地震防災官)		
8月24日	第27回	神戸市立鷹取中学校 中溝先生講演のDVD鑑賞 阪神淡路震災時、神戸市内最大の避難所を運営	1.17慰霊祭、神戸市訪問時の講演ビデオ		
9月26日	第28回	防災訓練より学ぶ 防災訓練報告 県内各地で上期に開催された防災訓練を会員が報告	(伊勢原市合同訓練参加者) *田中 伸二氏(足柄上郡大井町)*内田 晴之氏(足柄上郡大井町)*岡安 英治氏 (足柄上郡開成町)*大堀 紀子氏(横浜市磯子区)*黒須 恵子氏(横浜市栄区)*中 村 俊光氏(横浜市旭区)*山口 章氏(横浜市緑区)*森 清一氏(栗野市)*池田 邦 昭氏(横浜市緑区)		
10月19日	第29回	1 高齢者と防災意識 2 救急利用の実態と今後の救急活動	1 *林真 理子氏(横浜市緑区) 2 *森田 清氏(横浜市中区消防署)		
11月16日	第30回	1 横浜市港南区日限山中学校防災訓練 2 2007年新潟中越沖地震報告会について	1 *中村 俊光氏 *小原 茂氏 2 *荏本 孝久氏(神奈川大学工学部教授、防災塾・だるま 塾長)		
12月27日	第31回	2007年度防災塾・だるま&談義の会合同忘年会 ・防災コーディネーター養成講座の感想・反省・次回への期待 ・「防災塾・だるま」の今後の活動と期待	参加者30名 「防災塾・だるま」会員 他		
2008年 1月12日	第32回	防災ギャザリングへの参加 報告	まちづくり談義の会と「防災塾・だるま」の合同会議		
2月22日	第33回	阪神・淡路大震災に学ぶ 2008年1.17神戸のつどい 参加報告	防災塾・だるま会員		
3月11日	第34回	地域の防災講演会(主催 はだの災害ボランティアネットワーク) 災害から「まち」を守る ～神戸の体験に学ぶ～	*松山 順三氏(神戸市北区社会福祉協会 元神戸市職員)		
3月24日	第35回	阪神・淡路大震災に学ぶ(続き) 現地取材(DVD)放映	*近藤 豊吉先生(震災時、神戸市立鷹取中学校 校長)		
2008年度「防災・まちづくり談義の会」活動の記録					
日付	回(通算)	防災まちづくり談	活動の記録		
5月28日	第181回	神奈川最大の誕生と自然災害の理解	*鷺山 龍太郎氏(だるま副塾長 元小学校校長)		
7月27日	第182回	東日本大震災10年 災害を克服できる防災まちづくり・防災教育の 未来像を考える	*佐藤 敏彦氏(小さな命の意味を考える会代表) *鷺山 龍太郎氏(だるま塾長 元小学校校長)		
9月17日	第183回	震度6強の首都直下地震に備えるための耐震化推進	*田中 栄治氏(防災塾・だるま副塾長・ASAシン代表)		
11月26日	第184回	境目のない自助・共助の地域防災の構築を目指して	*塚中 祐二氏(北瀬島小学校地域防災拠点運営委員会副委員長)		
2022年 2月18日	第185回	総合治水から流域治水へ ～市街地地域や気候変動が引き起こす 洪水等から命を守る流域治水、一級河川鶴見川について～	*柳原 賢二氏(国土交通省関東地方整備局 京浜河川事務所事業対策官)		
2022年度(令和4年度)「防災まちづくり談義の会」活動					
日付	回(通算)	防災まちづくり談義の会	講師・参加者等		
5月26日	第186回	地域防災計画制度創設と、現状・課題・展望 ～地区防災計画を理解する「つどい」～	*加藤 孝明氏(東京大学生産技術研究所 教授、地区防災計画学会理事)		
7月22日	第187回	川崎市多摩区における2019年台風19号被害実態とその後から防災 まちづくりを考える	*河原典子氏(一社)神奈川建築士会 防災・災害対策委員長)		
9月16日	第188回	地域のマルチハザード解析と対策構築	*藤合 啓氏(神奈川大学建築学部助手)		
11月25日	第189回	自主防災会会長の災害時の役割	*黒田剛氏(QQ防災クラブ代表 防災士)		
2023年 1月20日	第190回	海洋大気の相互作用が招く気候変動	*米山邦夫氏(JAMSTEC 大気海洋相互作用研究センター長)		
2023年度(令和5年度)「防災まちづくり談義の会」活動					
日付	回(通算)	防災まちづくり談義の会	講師・参加者等		
5月26日	第191回	関東大震災から百年 ～写真や絵画等で知る横浜の記憶～	*相原延光氏(防災塾・だるま理事長 元神奈川地学会会長)		
7月21日	第192回	地域の備えは自助と共助の見守り合いで！ ～「おとなり道システム」の仕組みづくり～	*松島宗氏(防災塾・だるま理事長 中丸小学校地域防災拠点運営委員会事務局長)		
10月20日	第193回	「横浜の関東大震災」を学ぶ街歩き	*相原延光氏(防災塾・だるま理事長 元神奈川地学会会長)		
12月22日	第194回	よこはま防災力向上マンション認定制度について ～同制度の認定を取得した会員からの報告～	*後藤浩志氏、伊藤郁夫氏(だるま会員)		
2024年 2月3日	第195回	災害時の女性と子どもの安全	*池田恵子氏(静岡大学グローバル共創科学部・防災総合センター教授)		
2024年度(令和6年度)「防災まちづくり談義の会」活動					
日付	回(通算)	防災まちづくり談義の会	講師・参加者等		
4月26日	第196回	能登半島地震 ～現地で活動した会員からの報告～	*荏本孝久氏、中根圭介氏、伊藤郁夫氏、高松清美氏、加藤愛梨氏		
5月24日	第197回	山国誕生の謎 ～東西圧縮の原因～	*高橋雅紀氏(地質学者・理学博士)		
7月19日	第198回	能登半島地震を踏まえた地盤の問題と耐震化推進	*荏本孝久氏(神奈川大学名誉教授・工学博士) *河原典子氏(河原一級建築士事務所主宰)		
9月19日	第199回	いのちとくらしを守る ～防災と福祉の都合～	*川上富雄氏(駒澤大学文学部社会科学科教授)		
11月15日	第200回	第200回を基盤とした防災の未来への提案	*「防災塾・だるま」会員 有志数名		
2009年度「防災・まちづくり談義の会」活動の記録					
日付	回(通算)	防災まちづくり談義の会	講師・参加者等		
4月22日	第48回	高層マンション・高層ビルの防災対策・点検	*荏本孝久氏、中根圭介氏、伊藤郁夫氏、高松清美氏、加藤愛梨氏		

「防災まちづくり談義の会」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2020年9月から隔月の開催になりました。

8	3-(3) 講座・人材育成	養成講座活動 記録一覧 2006-2025	P DF	旧 H P	 神奈川大学連携エクステンション講座実施記録
---	---------------	-----------------------------	---------	-------------	---

防災まちづくりコーディネーター養成講座

養成講座	メインテーマ
2024年KUエクステンション講座 講座実施記録	地学を楽しむ災害対策を考える
2023年KUエクステンション https://www.ku-portsquare.jp/site/course/detail/4263/	100年の時空を越えて再認識し体感する「横浜の関東大震災」
2022年養成講座	マルチハザード社会を生き抜く防災まちづくり講座
2021年養成講座	新時代の防災力向上セミナー
2020年養成講座 開催中止	お詫び
2019年養成講座	防災・減災の取組み：その具体的進め方
2018年養成講座	防災・減災は地域の取組みが決めて！ その具体的な進め方
2017年養成講座	防災の最新知識と地域防災実践事例を学ぶ
2016年養成講座	犠牲者ゼロを目指す地域防災の進め方
2015年養成講座	防災の実践事例を学び、地域力で生き延びる
2014年養成講座	防災・減災の考え方と対応策を学び、地域で活かす
2013年養成講座	地域にいかす「防災・減災の知識・知恵」を学ぶ
2012年養成講座	地域にいかす「防災・減災」知識と知恵を学ぶ
2011年養成講座	東日本大震災から学ぶ防災（減災）まちづくり
2010年養成講座	避難所運営に係わる実践力の向上
2009年養成講座	人的ネットワークによる地域防災力の向上
2008年養成講座	人的ネットワークによる地域防災力の向上
2007年養成講座	人的ネットワークによる地域防災力の向上
2006年養成講座	

9	3-(3) 講座・ 人材育成	2019 年 養成講座 講義録 (抜粋例)	PDF	旧 HP	https://darumajin.sakura.ne.jp/40youseikouza/youseikouza2018/13kai_1genme20181011.pdf
---	-------------------	--------------------------	-----	---------	---

神奈川大学生涯学習 エクステンション講座【2019年後期】

本講座は神奈川大学と「防災塾・だるま」が共同で企画し、提供するものです。

2019年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 《講義録1限目》

《講座のメインテーマ》

防災・減災の取り組み

その具体的な進め方！

記録：講座協力委員 紅林敏行

◆開催月日：2019年10月10日(木) 13:30~17:00

◆開催場所：KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆

・前半：『災害リスクの相互認識と共有による地域の防災・減災対策のすすめ』

講師：荏本 孝久 氏(神奈川大学工学部教授、防災塾・だるま塾長)

・後半：『受講者の自己紹介と、我が地域防災力の課題等について意見交換』

進行：山田 美智子 氏(総合司会、フリーアナウンサー(FM 湘南ナバサ))



講義の様子



講師：荏本孝久氏

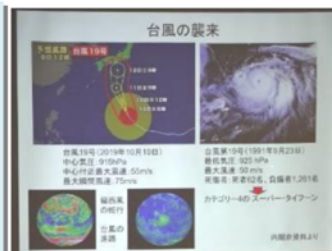
《地域の被害規模の極小化が基本！》

- 小さい活動でも続け、賛同者を巻き込み、地域全体の活動に展開していく。
挨拶、見守り、お祭、運動会、防災訓練等の「草の根」的な活動。
- 地域の災害リスクを知り、そして地域全体で共有していく。
講演会、ワークショップ、防災訓練等の活動を継続。災害リスクは変動。
◇地域の地形/地質/地盤。 ◇法律、制度、行政の対策。住民の対策。
◇施設、構造物、ライフライン、人口構成、災害履歴等。
- 防災リーダーの養成が必要。必ずしも自治会長でなくても良い。
- 地域の行政機関、ボランティア組織との連携も必要。



《被災時の最悪シナリオを考え、共有！》

- 2018年、2019年と高温が続き、地震、台風、豪雨等の災害が多発。
- 地球環境が変化。(左右の写真)
◇数百年～数十万年での気候変動
◇数千年～数万年での大規模噴火
◇数百年～数千年での巨大地震
◇数十年～数百年での大規模地震
◇数年～数十年での大規模台風
◇毎年～数年での洪水/土石流/土砂崩れ



『受講者の自己紹介と、我が地域防災力の課題等について意見交換』



意見交換の様子



第1回アイスブレイク 『防災めくり』の紹介

- 3人以上集まれば、誰でもどこでも手軽にできるゲーム。
- 備え、発災時、避難時の様々な考え方、対処の方法を学ぶ。次回から体験！



片山晋さん

《自己紹介/意見交換から課題等を抜粋》

- ◇防災減災知識を学ぶ ◇被災地訪問 ◇自助の実践 ◇安否確認
- ◇自主防災組織の活性化 ◇実践的な防災訓練 ◇正常化バリエーション
- ◇地域、学校、保護者の連携 ◇顔の見える関係 ◇自治会との連携
- ◇マンション防災 ◇情報共有 ◇要援護者 ◇福祉避難所 ◇想定外

『ご挨拶：荏本孝久氏(防災塾・だるま塾長)』

- 本講座は今年で14回目。メインテーマを掲げ、テーマに即した色々な実践的な内容を学習する珍しい講座。防災・減災の専門家や仲間とのネットワークも作れます。



総合司会：山田美智子さん

10	3-(3) 講座・ 人材育成	2024 年 養成講座 講 義録 (抜粋例)	PDF	旧 HP	https://darumajin.sakura.ne.jp/40youseikouza/2024extension_report.pdf
----	-------------------	---------------------------	-----	---------	---

2024年度 神奈川大学エクステンション講座 実施記録

講座 テーマ	地学を楽しみ災害対策を考える		【講座趣旨】 能登半島地震は、M7.6の地震を想定できなかった反省が残りましたが、巨大な地震が大地を隆起し、陸地を産み出す事実も目の当たりにしました。また、現地を視察してみると、地域の耐震性の低さと、地盤による被害程度の差も全国的な課題と認識されました。そこで、今回のエクステンション講座では、関東平野、神奈川県の驚異の生い立ちを学ぶことをベースに、表層の地盤の問題、そして能登半島地震を踏まえて考える「耐震化」推進の問題を考えます。		
期日	2024年11月16日・30日(土) 12月7日(土) 14:00～15:30	受講者数実績 39名 (うち「防災塾・だるま」会員5名)	受講料 4000円		
	講師名	プロフィール	演題	記録要旨	記録者コメント(鷺山龍太郎)
11/16	高橋雅紀	東北大学にて博士号取得後、専門は地質学、テクトニクス、層序学。関東地方の地質を調べ日本列島の成り立ちを研究。員	「日本海の拡大によって形成された関東平野下の巨大な基盤の凹凸」	関東平野の地下には巨大な基盤の凹凸が存在することが判明。それは横浜地域で深さ4000mに達する。この凹凸は日本列島が大陸から分離する過程でグラベン、ハーフグラベン(正断層)として形成された。それを堆積物で充填したのが関東平野である。300万年前に、フィリピン海プレートは北上から、北西方向へと進行方向を変えた。このため太平洋プレートの圧縮力は日本海溝を移動させ、東北地方を東西に圧縮することとなった。この結果、東北地方は陸化産地化が進行した。日本の平野はその圧縮によってたまたま断層上にできており、阪神淡路大震災なども、産地と低地の境にある断層が動いている。この幾何学的な大地の動きは紙模型から発見された。受講者はプレート運動を作業的に体感できる紙模型の組み立てと操作により、日本列島が誕生していくメカニズムを体験し、豊富な映像からの操作今物語を学ぶことができた。	第198回秋の会でご講演をいただいた高橋雅紀先生に、関東平野の誕生に焦点を当てたご講演をいただいた。1700万年前からの始まった日本列島の大陸からの分離による裂け目の位置が関東平野である。「山国誕生」の動力は太平洋プレート、断層はフィリピン海プレートという高橋先生の比喩が面白い。山国日本列島を生み出してくれたアプレート、そしてその圧縮によって生まれる海溝型地震と内陸型地震と共存していく我がらが宿命を改めて認識することができた。
進行 鷺山龍太郎					
11/30	平田大二	神奈川県立生命の星、地球博物館名誉館員	神奈川の大地の成り立ち 丹沢山地をつくる岩石 約1700～600万年前の海底火山噴出物と深成岩 日本海の拡大と伊豆小笠原島の衝突約1500万年前 丹沢山地の地層ができた場所 大磯丘陵と三浦半島 約1700～600万年前の堆積岩大磯丘陵をつくる地層 約1700～500万年前の堆積岩約600万年前 大磯丘陵・三浦半島の地層ができた場所 多摩丘陵約100万年前 多摩丘陵の基盤の地層ができた場所多摩丘陵をつくる地層 箱根火山箱根火山の形成 40-23万年前 約40万年前から活動が始まる 火山灰が関東平野を覆う＝関東ローム層 東京軽石層 ・自然現象は地球の営みなので、起きることも、止めることもできません。 ・自然現象が人間に被害をもたらすのが、自然災害です。 ・自然現象を止めることができませんから、自然災害も止めることは困難です。 ・自然は、人間の想像を超えることが多々あります。備えをしても、防げないこともあります。まずは、避難することを考えましょう。 文明が発達すればするほど、被害は大きくなる(寺田寅彦)	神奈川県における地学研究を指導しその研究の変遷を俯瞰されてきた平田大二先生にご講演をいただくことができた。 神奈川県の最古の岩石の誕生から、丹沢の衝突、大磯丘陵や、三浦半島の誕生、箱根火山の活動など、神奈川県の今の姿になってきた物語を豊富な画像でご説明いただいた。 文明が発達すればするほど、被害は大きくなる(寺田寅彦)という言葉を引用して講演をまとめた。 自然を知ること、適切な避難行動の必要を示された。 防災の基本の一つが自然との共生であることを改めて理解できるご講演だった。	
進行 高松清美					
12/7	佐本孝久	神奈川大学名誉教授・工学博士。 1976年東京理科大学大学院修士課程修了。前田建設工業(株)を経て神奈川大学工学部建築学科で教鞭をとる。専門は地盤工学・地盤工学・特に地盤変動特性によるマイクログレージングの研究。	「能登半島地震現地視察からわかること～神奈川の地盤、あなたの家の地盤を知る～」	○2024年能登半島地震の建物被害 ➢2024年能登半島地震について建物被害と地盤の関係について、地盤の液状化の影響もあるが、建物構造の耐震性が強く揺動に耐えられなかったと考えられる。 ○地盤構造の違い➡関東平野の成立 ➢地形・地質の配列の骨格を決めるのは地殻変動 ➢低地の地形と地盤を決めるのは低地を形成した河川の土砂運搬能力 ➢これらに人による変化が加えられ、現在の土地条件が形成されている ○建物の揺れ方➡液状化被害と共振現象 ➢防災的な観点で地盤構造を把握するのには常時微動の利用は有効である ➢地盤が交通や工場などの人間活動や、波浪など自然等の、人間が感じない微小な地面の揺れ ➡ 地盤構造を反映する ○表層地盤の特性と常時微動の利用 ➢地盤構造の成立と構造が異なり、地盤変動特性を広域的に理解し、地震災害を予測することが重要であり、その調査方法として常時微動を活用することが有用であると考えられる。 ➢その事例として、横浜市内における結果を説明した。その結果、周期特性は地盤の硬軟とよく整合する。また、H/Vスペクトル比から求める卓越周期と増幅率から地盤ハザードを評価した結果、地盤の危険度評価として有効であった。 ○神奈川の地盤リスク ➢微動アレイ観測により、相模平野を対象に2次元地盤構造の推定を行った。その結果、地盤ハザードが大きく、地震災害リスクが高くなる理由が明らかとなった。 ➢常時微動観測結果から神奈川の地盤リスクを評価した結果を説明した。	今年の4月、佐本孝久先生と佐藤孝治先生と能登半島調査に同行させていただいたので、先生の地盤と被害を調査する視点を間近に学ばせていただいた。 奥能登をいくと、峠と入江の繰り返しになるが、地盤が硬い峠の部分では、倒壊している家は少なく、地盤が軟弱であったり、砂地であったりする入江の集落には倒壊家屋が見られ、さらに津波が襲っている。 耐震化推進も、特に地盤のよくない地域を優先すべきであるという先生の見解に共感する。 先生が研究してきた神奈川県の地盤も、常時微動の調査から、川沿いの低地部には震度増幅が起きる軟弱地盤が多いことは、能登半島よりも深刻であり、地盤に対応した耐震化推進が地震防災の基本として極めて優先課題であると思われる。本会の提言としても発信していきたいところである。
進行 山田美智子					
12/7	河原典子	Kappa研築工房 河原一級建築士事務所主宰、一般社団法人 神奈川県建築士会防災・災害対策委員、東京都木造住宅耐震診断技術者	「命を守る住まいの耐震性能とは、なぜ耐震診断・耐震改修工事が必要？コストは？」	1. 大地震でも命を守るには？地震に強い家とは？ 1). 木造の建築時期別の被害状況(2016熊本地震/2024年能登半島地震) 2). 新築時の耐震基準で変わる耐震性能(旧耐震・新耐震・2000年基準) 熊本地震でも能登半島地震でも、新耐震基準でも被害がかなり出ている実態が明らかになった。 2. 自宅や実家の「耐震化」何から始めれば？ 1). 「耐震診断」を検討するポイント→まずは何年前に建てられた家か？ 2). 市区町村の木造住宅耐震化促進事業→費用は？補助金は？ 3. 木造住宅の「耐震化」「耐震診断」「耐震改修工事」とは？ 1). 「耐震診断」「耐震補強計画」「耐震改修工事」→評点(基準1.0以上)とは？ 2). 「耐震改修工事」の必要性と考え方 2000年耐震は、次の点が強化されている。 ・地盤に対応した基礎・壁の配置・バランス ・壁の強度に応じた金具の使用・筋交いなどの金具固定 4. 耐震性能を知るヒント→まざまざ「地震対策」 1). 誰でもできる「我が家の耐震診断」・地盤による揺れの大きさ 自宅の耐震化は「自助」「共助」であり、一番の「防災まちづくり」 低価格による耐震工事もあり組まれている。 2). 防災ベッド/耐震シェルター→転倒家具の防止対策	本会会員であり、一級建築士の河原先生の講義でこの講座を開く計画であったが、河原先生の都合により、河原先生の資料を使用して鷺山が代講することになった。 地震による人命が失われることは、多くは、耐震化が不足している家屋の倒壊による。家屋の倒壊は火災の原因となり、津波からの避難路も塞ぐ。 旧耐震基準の家屋は、助成制度を利用して直ちに耐震診断、必要なら補強をするように強く推進したい。しかし、熊本地震、能登半島地震のデータからも、2000年耐震は被害が少ないが、2000年より前の1981年築以降の「新耐震基準」の家屋にも大きな被害が出ていることが明らかになった。地盤の悪さ×耐震性の低下により、倒壊は生じる。 河原先生は、実際にそれぞれの自治体の耐震化事業を活用し、相談し、制度利用を薦めている。また、低価格による耐震も効果を上げていることから、その推進も本会として提言していきたいところである。
代講 鷺山龍太郎					

11	3-(4) 他機 関連携・共 同運営	ぼうさいこくたい 2023 Os-7 活動記録 アーカイブHP	PDF	旧 HP	ぼうさいこくたい2023アーカイブページ 講座全記録
----	--------------------------	---------------------------------------	-----	------	---



ぼうさいこくたい 2023 KANAGAWA オリジナルセッション神奈川 Os-7

日時: 2023年9月17日(日)・18日(月・祝)

会場: 横浜国立大学 教育学部講義棟6号館101講義室

主催: オリジナルセッション神奈川 Os-7 実行委員会

連携主体: 「かながわ人と智をつなぐ防災・減災ネットワーク」、「防災塾・だるま」、「神奈川地学会」、「ひらつか防災まちづくりの会」、「(一社)神奈川県建築士会」、「(公社)日本建築士会連合会」、「神奈川大学建築学部災害リスクマネジメント研究室」、「防災&情報研究所」、「神奈川大学建築学部建築学科 落合努」



9月17日(日) セッション 特集 関東大震災

12:30~18:00

第Ⅰ部 神奈川の関東大震災 発生メカニズム及び被害と減災行動

12:40~14:30

第Ⅱ部 もし、関東大震災が再来したら

14:40~16:20

第Ⅲ部 過去の災害教訓を今、未来に語り継ぐ

16:30~18:00

9月18日(月・祝) セッション 地域防災活動/風水害

10:30~14:00

第Ⅳ部 神奈川で展開する地域防災・地域支援活動

10:30~12:20

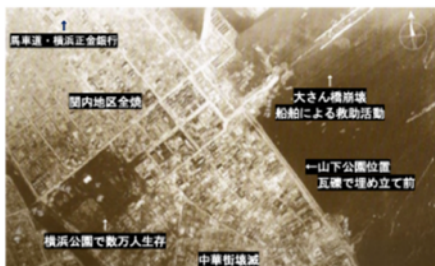
第Ⅴ部 激甚化する風水害による被災体験から流域の風水害対策を考える

12:30~14:00

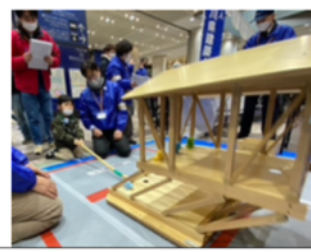
展示コーナー



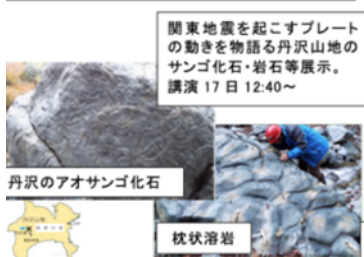
横浜は二万六千人余の犠牲があった被災地だった。横浜震災遺構を巡るコースを紹介。数万人が生きた横浜公園にて 講演17日14:40



「空から見た神奈川の大震災」 講演 17日 12:40
1923年9月5日 所沢陸軍飛行場 高度4000m
蜷江康光「関東大震災—米公開空撮写真 神奈川は被災地だった」より 写真 講演要旨



耐震補強実験模型、微動計、救出ボックス、アイデア防災グッズ、防災ドローン等実物展示
触れる、実験する、体験できるものもあり



関東地震を起こすプレートの動きを物語る丹沢山地のサンゴ化石・岩石等展示。
講演 17日 12:40~

丹沢のアオサンゴ化石



枕状溶岩



神奈川県の生い立ちから、プレート境界型地震だった大正関東地震の震源域を知る。ビデオ「丹沢の化石サンゴ」から(動画展示)

防災めくり



それは良い? 別の考えがある?

ぼうさいまちがいさがし、防災めくり、浸水被害住宅の技術対策マニュアル、他防災クイズ・ゲーム、震災遺構マップ・ポスター、マニュアル類展示

◎オリジナルセッション神奈川 Os-7 では、荏本孝久名誉塾長を実行委員長、鷲山龍太郎塾長が事務局長を務め、防災塾・だるまの総力で運営した。

Os-7開催報告

2023年9月17日（日）18日（月祝）に横浜国立大学を会場に開催された、内閣府主催防災推進国民大会「ぼうさいこくたい2023 KANAGAWA」には、「かながわ人と智をつなぐ防災・減災ネットワーク」（代表 神奈川大学名誉教授 荏本孝久）をハブとして、「防災塾・だるま」他、防災・減災に取り組む多様な仲間が連携・ネットワークを構築し、「オリジナルセッション神奈川Os-7」として出展。

出展テーマは、「神奈川の関東大震災から100年の教訓を未来につなぐ」

テーマに迫る、全5部、29の発表によるセッションと、多様なポスター、展示物、実演を行いました。

大会には、事務局発表で、16000人の参加があり、本出展も盛況でした。

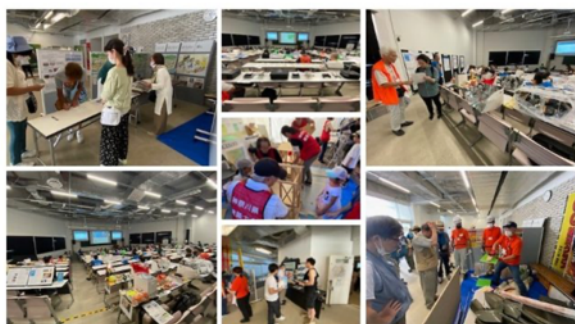
発表者、出展者、スタッフサポーターの皆様、全国からご来場いただきました皆様に心からお礼申し上げます。

今回構築できた神奈川の連携と、さらなる広範な皆様との交流をもとに、100年間の教訓と智を未来に向けて共有したいと願います。

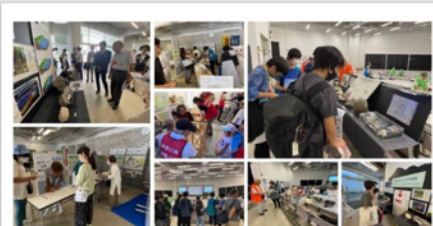
ぼうさいこくたい オリジナルセッション神奈川Os-7の風景



人気の実物・体験コーナー



展示物・ポスターも盛況



テーマに迫る充実のポスター類



12	3-(4) 他機 関連携・共 同運営	Os-7 講演要旨・資 料一覧 (0914 版) 抜粋	PDF	旧 HP	👉ぼうさいこくたい 2023Os-7 講演要旨一覧 👉アーカイブHP bosai-kanagawa.net 👉ぼうさいこくたい 2023Os-7 全記録
----	--------------------------	-----------------------------------	-----	---------	--

防災推進国民大会2023 オリジナルセッション神奈川Os-7 進行時間表・参加者集計表					
No.	9月17日(日)	発表者	時間		参加者
ZS1	オープニングセッション (中継)			10:30 12:00	
K01	開会挨拶	かながわ人と智ネット代表・神奈川大学名誉教授 荏本孝久	10	12:30 12:40	75
			講演時間	開始 終了	
コード	第Ⅰ部 神奈川の関東大震災 発生メカニズム及び被害と減災行動	12:40~14:30	1:45	12:40 14:25	75
S11	関東大震災を引き起こした神奈川の大地と地質「丹沢の谷にサンゴの化石」(海変じて山となる大変動は今も……)	神奈川地学会 門田真人	0:30	12:40 13:10	89
S12	未公開空撮写真で見る神奈川の関東大震災	ジオ神奈川 蟹江康光	0:15	13:10 13:25	71
S13	複合災害としての関東大震災～地盤災害と同時多発火災～	神奈川地学会 相原延光	0:30	13:25 13:55	81
S14	横浜市の関東大震災-救出・消火、そして避難-生死を分けた要因	防災・情報研究所 高梨成子	0:30	13:55 14:25	79
	○司会・コメンテーター:	神奈川大学名誉教授 荏本孝久			
			講演時間	開始 終了	
	第Ⅱ部 もし、関東大震災が再来したら	14:40~16:20	1:30	14:40 16:10	
S21	大正型関東大震災の神奈川県シナリオ型地震被害想定	神奈川県建設業協会 杉原英和	0:15	14:30 14:45	72
S22	次の震災被害を想定する地盤調査	神奈川大学名誉教授 荏本孝久	0:15	14:45 15:00	99
S23	建築時期別木造住宅の被害状況と住宅耐震性能・耐震改修について	(一社)神奈川県建築士会 防災・災害対策委員会 河原典子	0:15	15:00 15:15	88
S24	大震災後の生活再建のために	神奈川県大規模災害対策士業連絡協議会 弁護士 伊東克宏	0:15	15:15 15:30	73
S25	地震災害発生時の停電による被害と影響	神奈川大学教授 朱牟田善治	0:15	15:30 15:45	74
S26	※宣伝コーナー(101以外で開催している関連団体イベント紹介)	プログラムのリンク紹介・希望者	0:15	15:45 16:00	69
	○司会・コメンテーター:	神奈川県建設業協会 杉原英和			
			講演時間	開始 終了	
	第Ⅲ部 過去の災害教訓を今、未来に語り継ぐ	16:30~18:00	1:10	16:30 17:40	
S31	関東大震災の被災地を歩く/関東大震災の震源域の遺構から学ぶ防災	防災塾・だるま、神奈川地学会 相原延光	0:15	16:30 16:45	68
S32	平塚～湘南の関東大震災被害を語り継ぐ	ひらつか防災まちづくりの会 山田美智子	0:10	16:45 16:55	67
S33	学校を拠点にした防災まちづくり	横浜国立大学小田区校 落合努	0:10	16:55 17:05	59
S34	学校運営協議会で連携する防災まちづくり	横浜国立大学北瀬島小学校区	0:10	17:05 17:15	55
S35	北瀬島小学校における防災支援活動	神奈川大学助教 落合努	0:10	17:15 17:25	55
S36	インドネシア・日本での津波防災教育	東洋英和女学院大学教授 桜井愛子	0:15	17:25 17:40	51
S37	○司会・コメンテーター	関東学院大学教授 渡部 洋			
S38	パネルディスカッション (Ⅰ～Ⅲまとめ・関東大震災100年)～これからの100年に向けて～	神奈川県建設業協会 杉原英和	0:20	17:40 18:00	
	9月18日(月祝)		講演時間	開始 終了	
	第Ⅳ部 神奈川で展開する地域防災活動・地域支援活動	10:30~12:20	1:30	10:30 12:00	
S41	「防災直後の行動ゲーム」(J-DAG)の紹介	防災塾・だるま 片山 晋	0:15	10:30 10:45	76
S42	「空飛ぶ火の見やぐら・ドローン」を使った情報収集	一般社団法人 地域防災ドローン・相模原 堀口 真	0:10	10:45 10:55	78
S43	住民主体の災害時情報収集システムの活用	東海大学 梶田佳孝	0:15	10:55 11:10	59
S44	災害時の要配慮者支援について～これまでの経験から学ぶ～	神奈川県社会福祉士会 理事 横山 昂	0:15	11:10 11:25	67
S45	ひらつか防災まちづくりの会	ひらつか防災まちづくりの会	0:10	11:25 11:35	81
S46	ローリングストックBOX兼ソーラークッカー・簡易感震だるま	大井町防災まちづくりの会 会長 瀬戸 滋	0:10	11:35 11:45	61
S47	横浜市緑区における市民による防災意識啓発活動	まちづくりネットワーク緑 樋口 誠	0:10	11:45 11:55	77
S48	宣伝コーナー(101以外で開催している関連団体イベント紹介)	プログラムのリンク紹介・希望者	0:05	11:55 12:00	
	○司会・進行:	ひらつか防災まちづくりの会 山田美智子			
			講演時間	開始 終了	
	第Ⅴ部 神奈川県下の風水害による被災体験から流域の風水害対策を考える	12:30~14:00	1:30	12:30 14:00	
S51	神奈川県の風水害と防災気象情報	横浜地方気象台次長 井上 卓	0:15	12:30 12:45	82
S52	2019年台風19号による被害対策とその後の経過	広尾学園高校3年 長本吏央	0:10	12:45 12:55	91
S53	台風19号の被災から考える災害対応	(一社)神奈川県建築士会 防災・災害対策委員会 河原典子	0:10	12:55 13:05	90
S54	激甚化する水害と浸水被害住宅の被災後対策について～「浸水被害住宅の技術対策マニュアル」の紹介と被災地での対応～	公益社団法人 日本建築士会連合会 災害対策委員会	0:45	13:05 13:50	90
S55	地域をつなぐ地区タイムライン	「防災塾・だるま」 鷲山龍太郎	0:10	13:50 14:00	98
H01	全体総括	防災塾・だるま 鷲山龍太郎	0:10	14:00 14:10	91
H02	閉会挨拶	かながわ人と智をつなぐ防災・減災ネットワーク代表 荏本孝久	0:10	14:10 14:20	
	○司会・進行:	神奈川県建設業協会 杉原英和			
ZS2	クロージングセッション (中継)			14:30 15:30	

参加者集計	
第Ⅰセッション平均	79
第Ⅱセッション平均	81
第Ⅲセッション平均	61
第Ⅳセッション平均	71
第Ⅴセッション平均	90
5部平均参加者数	76
29セッション参加者延べ	2175
ホール視察者17日	238
ホール視察者18日	139
ホール視察者延べ	377
建築士会テント17日	250
建築士会テント18日	300
建築士会テント延べ	550

👉 ぼうさいこくたい 2023 オリジナルセッション 神奈川 Os-7 総括の言葉

(鷲山実行委員長：防災塾・だるま塾長)

👉 ぼうさいこくたい 2023 全体クロージングセッション 挨拶

2 日間にわたる「ぼうさいこくたい 2023」へ参加された皆様、お疲れさまでした。今回このイベントでは、皆様のご協力により素晴らしいイベントになったと思います。終了にあたり、まず内閣府、神奈川県、横浜市を始め会場を提供下さった横浜国立大学に感謝申し上げます。

今回は、毎年開催されて来た「ぼうさいこくたい」の 8 回目ということで、かなりの実績を踏まえた企画で開催されたと思います。

それぞれの開催地で、大きな成果を挙げていると思います。今回も神奈川県で開催されるということで、そのことを最重点として考えて私共の企画を進めてきました。

本年 4 月から神奈川県のイニシアチブの基で、4 回の現地情報共有会議を開催して頂いて、情報共有化と「神奈川県の特徴」という点について検討と相談を重ね、企画を進めてきました。

特に、私達はオリジナルセッション Os-7 として、9 つの団体が連携して 2 日間通して特徴あるセッションを開催させていただきました。非常に短期間で多数の団体の連携を図るということで、難しさもありましたが、皆様のご協力で無事終えることができました。

今後大きな地震災害の発生とそれによる大震災が危惧されていますが、今回の「ぼうさいこくたい 2023」の経験が生かされて、これからの防災・減災活動に有用な原動力となること期待したいと思います。

また、今後の皆様の地域防災活動の益々の発展を願っております。有難うございました。

2023 年 9 月 18 日

ぼうさいこくたい 2023 現地情報共有・連携会議

神奈川大学名誉教授 荻本孝久（防災塾・だるま名誉塾長）

👉 [ぼうさいこくたいオリジナルセッション 神奈川 OS-7 アーカイブ H P](http://bosai-kanagawa.net)

<http://bosai-kanagawa.net>



ぼうさいこくたい
オリジナルセッション
神奈川 OS-7 アーカイ
ブ H P
<http://bosai-kanagawa.net>

13	3-(4) 他機関連携・共同運営	(連携) かながわ・よこはま防災ギャザリング	Web ページ	新 HP	https://bosaijuku-daruma.com/bosai-gathering/
----	------------------	------------------------	---------	------	---

かながわ・よこはま防災減災体験フェア2025 開催趣旨・概要

1. 開催趣旨(※実行委員会規約に基づく)

「かながわ・よこはま防災ギャザリング実行委員会」は、災害時における神奈川県内外のボランティア団体および関係機関が、それぞれの立場を超えて連携・協働できる関係性を構築し、平時から地域防災力の向上を図ることを目的としています。

本フェアでは、行政・企業・地域団体・市民が一体となって「減災」に向けた実践的な取り組みを広く発信し、体験を通じた気づきと学びを共有する場とするものです。

2. イベント名称

かながわ・よこはま防災減災体験フェア2025

3. 開催日時

令和7年(2025年)11月22日(土)9:30～13:00

※出展者集合:8:30、撤収完了:13:00



4. 開催場所

横浜市民防災センター(横浜市神奈川区沢渡4-7)

(屋内展示・屋外展示・研修室利用あり)

5. 主催

かながわ・よこはま防災ギャザリング実行委員会

代表:実行委員長 荏本孝久(神奈川大学名誉教授)



6. 共催(予定)

- NPO 法人 神奈川災害ボランティアネットワーク
- 公益社団法人 SL 災害ボランティアネットワーク
- 防災塾・だるま
- 日本防災士会 神奈川県支部
- 横浜市消防局(調整中)



7. 協力(予定)

神奈川県、横浜市、神奈川区、地域団体、教育機関、企業 ほか

8. 実施内容

- 体験型ブース(応急手当、備蓄体験、防災 VR、消火訓練 ほか)
- 啓発展示(パネル展示、パンフレット配布、防災・防犯・交通安全啓発等)
- 講演会・ワークショップ(防災教育、防災 BCP、DIG 体験など)
- 屋外活動(自衛隊・消防・災害車両・水道局装備展示 ほか)

- スタンプラリーやクイズ形式による参加型学習
- 行政機関・企業・NPO・学校による防災活動紹介

9. 来場対象

地域住民(子どもから高齢者まで)、防災関係団体、自治会・町内会、防災教育関係者 など

※過去の実績:来場者 約 200～300 名、出展団体 約 20～25 団体

10. 後援申請予定先

神奈川県／横浜市／神奈川県教育委員会／横浜市教育委員会 ほか

11. その他

- 出展費用:無料
- 出展者にはマニュアルを配布し、安全管理・広報連携を徹底
- 屋外展示は荒天中止(前日 16 時に判断)

12. 問い合わせ先

かながわ・よこはま防災ギャザリング実行委員会 事務局

担当:鷺山 龍太郎(事務局長)防災塾・だるま塾長

TEL:080-1077-4537

FAX:03-3766-7998

Email:wasshiy@me.com

「かながわ・よこはま防災減災体験フェア」公式HP

<https://kybousaigathering.wixsite.com/home>

第6号議案 2025年度役員選任の件

役職	2024 年度	2025 年度案	所属
委員長	高松 清美	荻本孝久	神奈川大学 防災塾・だるま 名誉塾長 かながわ人と智をつなぐ防 災・減災ネットワーク
副委員長		高松 清美	南区災害ボランティアネッ トワーク 防災塾・だるま副塾長
事務局長	舩田悦子	鷺山龍太郎	防災塾・だるま 塾長
事務局次長	武田潤子	舩田悦子 武田潤子	ICT かながわ 日本防災士会神奈川県支部
事務局員		山本光正	災害救援ボランティア推進委 員会
事務局員		山田美智子	平塚防災まちづくりの会 防 災塾・だるま副塾長
事務局員		齊藤明良	神奈川災害ボランティアネッ トワーク
事務局員		田中喜世美	防災塾・だるま 理事
会計	一政弘之	一政弘之 早川雅子	災害救援ボランティア推進委 員会 都筑災害ボランティアネッ トワーク 防災塾・だるま 副塾長
監事		今井 淳 森本美知子	日本防災士会神奈川県支部 磯子災害ボランティアネッ トワーク

かながわ・よこはま防災ギャザリング
防災に関するさまざまな体験ができます！

防災・減災活動体験フェア

スタンプラリー で景品ゲット！！ **参加無料**

開催日：2025年11月22日（土）
時間：9時30分～13時30分
（受付時間：9時～12時30分）
会場：横浜市神奈川区沢渡4-7
・横浜市民防災センター
・沢渡中央公園

●電車
横浜駅西口より徒歩10分
●バス
「市民防災センター前」より徒歩1分
「観音町3丁目」より徒歩3分
駐車場はありません。
周辺の有料駐 車場をご利用
いただくか、公共交通機関を
ご利用ください。

主催：かながわ・よこはま防災ギャザリング2025実行委員会
共催：NPO法人神奈川県災害ボランティアネットワーク（KSVN）
防災塾・だるま
公益社団法人 S L 災害ボランティアネットワーク
NPO法人日本防災士会神奈川県支部

facebook ホームページ

赤い羽根共同募金

14	3-(5) 地域・行政 への提言	防災庁創設への市民提言 (本文 PDF・返信)	Web	新 HP	https://bosaijuku-daruma.com
----	---------------------	----------------------------	-----	------	---

閣官房 防災庁設置準備室

室長 阪田 渉 様

防災庁創設に向けた市民提言ご拝読とご検討のお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

防災庁創設に向けた崇高なご尽力に、心より敬意を表します。

さて、本会では、「防災庁設置アドバイザー会議」の開催を受けて、防災に取り組む多様な市民、専門家、災害ボランティア経験者を含む会員の意見を集約すべく、学習会を開催してまいりました。

内閣府およびアドバイザーの皆様が示された方向性に基本的に賛同いたしますが、現在設けられているヒアリング期間において、本会の提言をぜひご一読いただき、検討の一助としていただければ幸いです。

また、防災庁創設と新たな体制の構築にあたり、市民意見を結集する組織として、本会も引き続き提言や意見表明を行ってまいりたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

1. 本会「防災塾・だるま」について

本会は、神奈川県を拠点とする市民団体であり、2006年の創設以来、防災講演会、交流会、被災地視察等を継続的に実施してまいりました。

2. 提言書の位置づけと目的

本会の主要活動である「防災まちづくり談義の会（講演会・交流会）」は、2024年11月に第200回を迎えました。この節目が防災庁設置準備室の開設時期と重なったことを契機に、これまでの防災研究の蓄積を活用し、「防災立国」の実現に向けた国民の願いと提言をお届けすることといたしました。

3. 提言の集約方法

神奈川県選出の衆議院議員であり、総務大臣政務官である古川なおき氏にご講演を依頼し、本会第202回「防災まちづくり談義の会」を開催しました。

その際、事前に会員の意見を収集し、当日は意見交換を実施。古川政務官の代理として出席された秘書・中川颯士氏とも意見を交わしました。

その後も会員間での検討・協議を重ね、最終的に全体会を経て、本提言として取りまとめました。

4. 提言整理の観点

以下の論点を踏まえ、会員の意見を対比・分析し、体系的に整理いたしました。

- (1) 内閣府防災の組織・定員拡充の方向
- (2) 防災庁設置に向けた主要論点およびアドバイザー会議における議論との比較検討
- (3) 会員の切実な思いを「自助・共助・公助・新時代対応」という本会の研究の柱を基軸として整理

令和7年6月24日

防 災 塾 ・ だ る ま
塾 長 鷺山 龍太郎
名誉塾長 荏 本 孝 久

「防災塾・だるま」から防災庁創設への市民提言

令和7年（2025年）5月15日定例会合意案（以後微修正） 防災塾・だるま

はじめに

防災塾・だるまは、地域防災の専門家やボランティアで構成された市民団体です。私たちは防災庁の創設を強く支持し、大きな期待を寄せています。本提言は、防災庁設置準備室が開設された2024年11月で200回に達した本会の防災学習会（防災まちづくり談義の会）を総括し、その後、会員提言アンケート、提言集会、さらなる学習会を経て2025年5月に共通理解化したものです。

この提言は内閣府の方針とアドバイザー会議の意見と参照しつつ整理した重要な観点をまとめたものです。防災庁設置準備室での慎重な検討をお願い申し上げます。

提 言

1. 「公助」の観点から

（1）「防災関連法令の不整合」の法的整理と遵守監督

庁は、国家的な災害対応の中核機関として、全ての防災活動を調し、迅速な対応を行う。平常時には、防災関連法令間の乖離

（例：消防法と水防法/災害対策基本法と国土強靱化法/消防法と保健安全法等々）を解消し、整合を図る法整備を推進する。これづき、法令に示された目標（例：地区防災計画、要援護者支援、化、学校と地域の連携など）が、教育普及、遵守、実現されるように、各省庁を統括し監督する。



防災
整

学校
に基
耐震
う

（2）政府、自治体（地域）、地区が一丸となった災害対応能力の確立

による災害対応能力を高め、事前準備を強化するとともに、自治せ、防災において法的責務のない任意団体である自治会等に依存しすぎている現状を見直し、政府、自治体（地域）、地区が一丸となった官民が連携した実効性ある防災システムを構築する。

総力
体任

（3）災害ボランティアや各種専門家を「特別公務員」として制度化

有事に備え、災害対応に対応できる専門的な人材を育成し、必要に応じて動員できる体制を構築する。（自衛隊の予備役のように）事前登録と研修を制度化し、報酬の支給を含む制度の創設を図る。災害時には被災地以外の人員による救援活動が展開される体制を作る。

（4）SUM 基準による即時被災地支援

スフィア基準やTKB48（48時間以内のトイレ・キッチン・ベッド）を実現するために、イタリア式避難所の要となるSUM（同一企画・ユニット化・モビリティ）基準を基に、即時被災地支援システムを全国ネットで実現する。

（5）復興行政における市民参画による高度な調整

防災庁は、地域での関係者間の調整機能を強化し、自治体や関係機関、市民参画による復旧・復興を見据えた防災計画を整備する。

（6）「防災・復興コーディネーター」の育成・配置

事前防災から復旧・復興に至るまで、行政、住民、関係機関の合意形成を支援する「防災・復興コーディネーター」を育成し、各地に配置する。

2. 「共助」の観点から

(1) 「防災地区」全国一律指定

の自治体に対し、「防災地区」の指定を義務づけるため、災害基本法を改正する。

(2) 「地区防災計画」策定と「地区防災会議」開催

災地区において、行政、学校、住民、事業所、医療機関、消防などが参加する「地区防災会議」を行政主導で年1回以上開催標準項目に基づいた「地区防災計画」を策定する。計画には、リスク、避難行動、復旧・復興、役割分担、専門家活用、各主行政の責務などを明記する。

(3) 「地区防災マニュアル・地区防災マップ」の策定

ごとの防災計画に基づいた防災教育の一環として、「地区防災マニュアル」および「地区防災マップ」を策定するものとする。これらは、全国統一基準に従い策定されるものであり、AI等の技術を活用した策定支援システムの導入を提案する。

(4) 地区総合防災訓練の実施

地区防災計画・マニュアルに基づいて住民と関係団体が参加する地区総合防災訓練を行う。学校は特別活動として防災教育に参加する。

(5) 実効的な避難行動と要援護者支援

災害関連死を予防するため、地区防災計画の中に要援護者支援を規定し、行政主導で個人情報保護法に配慮した標準的支援体制を確立。避難支援体制の実効性を高める。

(6) 「ふるさと防災団体」の指定と公的支援

市民活動や防災教育の普及を促進する地域で実際に活動する団体への経済的支援を法制化する。



共助（市民防災）強靱化

「防災地区」全国一律指定
地区防災計画策定義務（行政支援義務）
地区防災会議→地区防災計画策定
地区防災マニュアル・地区防災教育
地区総合防災訓練実施→津波避難率激増

全国
対策

各防
団な
し、
災害
体・

地区
ニュ

3. 「自助」の観点から（高齢化社会に対応した公助の自助支援）

(1) 地盤による建物倒壊リスクの「見える化」と耐震化推進

ザードマップの高精度化により、地盤情報と建物倒壊リスクの「見える化」を進める。

(2) 「常時微動」を使用した地盤調査やボーリング調査データの共有り、詳細な地盤調査と優先的な耐震化推進

地盤が脆弱な地域や要支援者世帯を優先対象とし、住宅の耐震化に推進する。

(3) 2000年以前の建築物の耐震診断と低価格耐震工事の推進

年以前に建てられた建築物の耐震診断と、地盤条件に基づく優先震化を明確にすることにより、一部地方で実績がある低価格耐震化、地盤改良、家具転倒防止・整理などの対策を優先順に推進する。



自助（家庭防災）強靱化

地盤起因の建物倒壊リスク「見える化」
地盤や個別リスクに対応した耐震化推進
高リスクな2000年以前建築物の耐震政策

地盤ハ
「見え

によ

を強力

2000
的な耐

4. 「新しい災害課題」の観点から

(1) 省庁横断的なインフラ強化と復旧

上下水道等老朽化したインフラ、ITを含む新インフラに対して省庁横断的な調整を強化し、災害時の被害を最小化する。

(2) 人為的要因を含む災害リスクへの対応

感染症や原子力災害など人為的要因に備えた対策を強化し、事業所の地区防災会議への地区防災計画の策定に参画することを明確化する。

(3) 「国際園芸博覧会(EXPO2027)」跡地等の防災目的活用

横浜市旭区・瀬谷区にわたる広大な敷地を活かし、体験型屋外訓練広場を常設化し、さらに、防災庁を中心とした自衛隊・警察・消防・自治体・地域住民による連携訓練の拠点にする

防災庁創設に向けて、ハード面の強化と車の両輪となるべき「ソフト面の強化」を提案します

～南海トラフ巨大地震死者想定を三分の一以下にする方法（AI評価）～



防災庁設置準備室への6月24日の提言書提出に対する、6月25日 防災庁設置準備室からの返信

防災塾・だるま
塾長 鷲山様

平素より、防災行政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

これまで講演会を数多く開催されてきたことを心強く思うとともに、このたびは、貴団体より貴重なご提案をお寄せいただき、心より御礼申し上げます。

- ・全体を俯瞰して防災関連法令の整合をとること
- ・被災者支援にあたり、標準化を進めること
- ・リスクを見える化し、耐震化を進めること

などをはじめ、重要な視点を提供いただいていると感じました。

また、具体的な法律の改正案まで示していただき、驚くばかりです。

いただきましたご提案につきましては、今後の施策の検討にあたって参考とさせていただきます。

市民の皆様からのご意見・ご提案は、よりよい防災体制の構築に向けた大切な手がかりとなるものであり、私どもとしても真摯に受け止めてまいります。

今後とも、地域の防災力向上のため、ご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げますとともに、貴団体の益々の発展を祈念しております。

内閣官房 防災庁設置準備室
参事官補佐 箕打 正人 (Miuchi Masato)
中央合同庁舎第8号館 407-2
電話：03-5253-2111

15	3-(6) 教材公開・KPI	防災教育教材 (J-DAG／テキスト等)	Web	新 HP	https://bosaijuku-daruma.com/kyouzai/
----	----------------	----------------------	-----	------	---

発災直後の行動ゲーム(J-DAG)とは

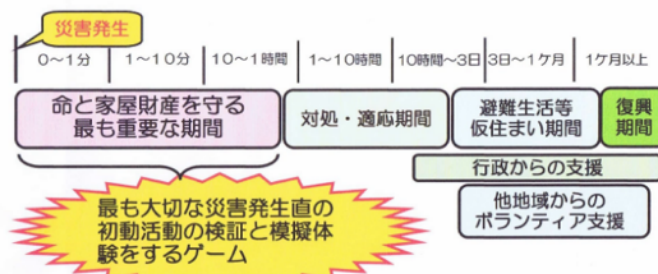
1. 発災直後の行動ゲーム「J-DAG」誕生の背景

J-DAGを一言で言えば、災害発生直後の約1時間に地域や施設などで起こる被害に対して、その対処対応を実時間と同じリアルタイムで、実戦的に約1時間体験する防災・減災ゲームです。

日本列島は地震の活動期にあります。大地震はいつどこで起きても不思議ではありません。とりわけ、東海、東南海、南海の大地震や首都圏直下の大地震が切迫しています。来るべき大地震では阪神淡路や3.11の大災害を遥かに上回る大きな被害が予想され、しっかりと事前の備えをすることが欠かせません。

そして大地震が発生した時には、その直後の対処が最も大切ですが、多くの地域や施設では取組みが遅れています。先ず最初に行うことは、我が身の安全と家族の安全確保、続いて近隣者の安否確認や被害情報の把握です。

被害状況の報告、それに応じた適切な指示を出すなどの情報伝達が重要です。それら情報や指示に基づき適切な判断と効果的な行動ができれば大きな減災の効果をもたらします。発災直後の最も大切な約1時間は隣り近所や自治会・町内会、学校や会社などの施設（以下自治会とする）



この時点は、自治会・町内会など地域の適切な対応が決め手

図-1

など小さな地域/範囲でしか対応できません。



写真-1

これら各地域による減災の積み重ねが全体の大きな減災につながります。このような地域の被害を小さくするための仕組みや行動、そして必要な防災資機材は何かなどの検証が出来ると共に、遊び感覚で実戦的な訓練が容易に行えるものとして、発災直後の行動ゲーム「J-DAG」を創作し、地域で実践を始めました。

2. J-DAG (Just Disaster Action Game) とは

大地震があった時には停電になります。そして電話もケータイも通じません。地域の自治会などではどんな対応をするのでしょうか。自治会長や防災部長は不在かもしれません。そのとき司令塔となる自治会館には誰もいないでしょう。家に閉じ込められた人や建物の下敷きになった人の救出、火災の発生などへの対処が遅れると被害は取り返しのつかない事態へと拡大します。先ずは火災発生やその他の被害状況把握、また地域住民の安否確認が急務です。そして優先順位を考えて

16	3-(6) 教材公開・KPI	旧 HP トップ（アーカイブ導線／移設案内）	Web	旧 HP	https://darumajin.sakura.ne.jp	新旧サイトの接続
----	----------------	------------------------	-----	------	---	----------

旧ホームページはデータベースとして保存

人的ネットワークによる防災まちづくりを提案

防災塾・だるま

カレンダー リンク集

「防災塾・だるま」について

防災塾・だるまの紹介

荏本先生熟長退任記念講演

名譽熟長の部屋

熟長メッセージ

だるま規約

入会フォーム

総会

10周年記念誌

「防災塾・だるま」活動の記録（荏本先生退任記念誌）

Introduction

だるま事業

年間活動予定（2024年）

年間活動計画（2022年度）

サロン打合せ履歴(2021年度)

サロン打合せ履歴(2022年度)

年間活動計画(2023年度)

★防災サロン発表会(2022年度)

Aサロン Bサロン Cサロン

Dサロン

定例会

だるま通信

だるまイベント

地域貢献事業

学会関係

地域防災グループとの交流

活動参加・見学

講演資料

市民提言

防災談義の会

談義の会

養成講座

防災まちづくりコーディネーター養成講座

防災マニュアル・ゲーム・素材

子どもと家庭の防災マニュアル

考える防災

防災イラスト集（著作権フリー）

J-DAG=防災直後の行動ゲーム

防災塾・だるま 新会員募集

マルチハサードの時代に対応した防災情報の共有化と人的ネットワークの構築

神奈川県を代表する美しい風景。しかし、ここは1923年関東大震災の震源地であり、この風景の横浜市域（当時）が壊滅した歴史をもちあはるべきです。迎える超大地震や洪水等、多様な災害の実態を理解し、それを克服できる防災力の向上を目指して多くの皆様と共に進みたいと思います。

「防災塾・だるま」とは
市民、研究者、大学、企業、行政等のネットワークによる地域防災力向上を目指す組織として「災害の教訓を生かして七転び八起き」の理念から2006年に「防災塾・だるま」の名称をもって結成。防災講演会「防災まちづくり談義の会」（2024年には200回を突破）を柱として、「定例会」による情報の共有化、神奈川大学と連携してきたエクステンション講座、被災地視察会、他機関への連携支援などの多様な活動を推進しています。

「防災塾・だるま」の目的
本会は、あらゆる防災活動を通じて会員相互の防災力向上を図るとともに、防災に関わる情報共有化のためのネットワークを構築し、地域社会の防災まちづくりに貢献することを目指す。

<New！「防災塾・だるま」最新活動情報>

ホームページの移設について（2025年6月1日より）
新ホームページのURL <http://bosaijuku-daruma.com>

日頃より防災塾・だるまの活動にご協力頂き、誠にありがとうございます。
このたび、当塾のホームページを新しい独自ドメイン bosaijuku-daruma.com に
移設することとなりました。

<変更内容>
*新しいドメイン：当塾のホームページは、今後bosaijuku-daruma.com にて運営され
ます。これにより、より一層の利便性向上と情報発信を目指します。
*ホームページ移行の承認：ホームページの移行については、5月の第17回通常総会で
提案し、承認されました。
*最新情報の掲載：今回の「防災まちづくり談義の会」や前回のレポートなど、最新の
活動情報を掲載していきます。
*アーカイブの継承：これまでの活動内容やアーカイブは、新しいサイトに引き継がれ、
整理の上で閲覧可能となります。
*情報の整理と刷新：古い情報は整理し、新しい時代に対応した内容にリニューアル
します。これからの防災塾・だるまの探究と提言を反映させた、より充実したコンテンツを提供
していきます。なお、スマートフォンなどでの表示にも親和性があります。
なお、このホームページはデータベースとしては、引き続き存在しますが、
2025年6月1日を
もってトップページとしての機能を失います。
そのため、新しいホームページのアドレス bosaijuku-daruma.com を保存して
頂き、今後は
新サイトへのアクセスをお願いします。

引き続き、防災塾・だるまへのご支援を賜りますようお願い申し上げます。
新しいホームページが皆様にとって有益な情報源となることを心より願っております。

2025年5月31日
防災塾・だるま熟長 鷲山龍太郎

★防災塾・だるまが2023年ぼうさいこくたいにオリジナルセッションOs-7で参加し、
大盛況の防災イベントになりました。Os-7の活動記録はこちら。
詳細はbosai-kanagawa.netに掲載されていますので、ご確認ください。

17	取組の成果	談義の会 実施記録 延べ参加者数集計	PD F	旧 HP	https://darumajin.sakura.ne.jp/17katsudoukiroku-enomoto_taininkinenshi/%E2%97%86shiryohen-setsume.pdf
----	-------	-----------------------	---------	---------	---

年度	回数	テーマ	参加者数		回数	テーマ	参加者数									
2011	第71回	今だから話せる 東日本大震災への対応	48	2017	第142回	集合住宅での防災の課題 ～マンション防災 気になる 初めの一歩～	29	2023								
	第72回	日本の地震対策の歴史を考える	26		第143回	横浜駅西口共同防火管理協議会の防災・減災・危機管理対策について 並びに災害時の人権について	42		2024							
	第73回	東日本大震災レポート	28		第144回	150万人都市川崎市の防災対策 ～川崎市に大地震が起きた日～	31			2025						
	第74回	防災リスク情報プラットフォームを活用した被災地支援	23		第145回	首都直下型地震へ「鉄道」災害時の対策 ～鉄道の様々な問題と取り組み事例～	28				2026					
	第75回	東日本大震災におけるコミュニケーション確保への取り組み	34		第146回	防災・減災の実践的訓練ゲーム「J-DAG体験会」	40					2027				
	第76回	東日本大震災：被災地を訪れた土木学会山本一敏氏のレポート	19		第147回	熊本連続地震からの警告と弱者対策 ～歴史地震と大規模災害のリスクに関する考察～	41						2028			
	第77回	東日本大震災の経験を地震に強いまちづくりに活かすために	18		第148回	「水害・土砂災害への備え」横浜市の防災対策 ～早期の避難による安全の確保をめざして～	55							2029		
	第78回	東日本大震災の経験を地震に強いまちづくりに活かすために	31		第149回	改めて「国民保護」を学ぶ ～北朝鮮が核実験・弾道ミサイル発射実験を繰り返す今～	23								2030	
	第79回	東日本大震災に伴う県警の対応	34		第150回	防災・減災の課題を考えよう ～基礎自治体で抱える災害対策上の 課題と皆さんに期待される自助・共助～	30									2031
	第82回	東日本大震災から1年 パート2	26		第151回	災害と公衆衛生	29									
	計	287	第152回	阪神・淡路大震災から23年（見学会参加報告）	22	2033										
第83回	東日本大震災から1年「被災地を巡る（3/14～16）」	26	第153回	3.11は我々に何を残したのか ～地域防災活動の現状と今後の課題～	29		2034									
第84回	東日本大震災から1年「被災地を巡る」報告会③	25		計	399			2035								
第85回	総合治水の取組みについて（鶴見川を中心に）	23	第154回	防災気象情報を知ろう ～横浜地方気象台の見学と防災気象情報の講演～	31				2036							
第86回	首都圏の減災を考える ～近年の大震災の教訓をどう生かすか～	71	第155回	災害時のトイレ対策 ～3.11から浮かび上がった横浜市の支援体制 の課題と取組について～	41					2037						
第87回	原子力（放射線）対策について	22	第156回	災害派遣にかかる保健活動 ～発災時の活動から言えてきたこと～	22						2038					
第88回	東京都地域危険度測定調査と防災都市づくりへの活用	30	第157回	被災地における防犯対策	21							2039				
第89回	①地震保険について ②要援護者などへの取組み	21	第158回	関東大震災と横浜港（横浜みなと博物館・帆船日本丸の見学）	23								2040			
第90回	釜石～石巻・女川ツアー報告（2012年8月30日～9月2日）	21	第159回	気象災害クローズドの体験	27									2041		
第91回	ひとつの支援の形 ～まみおの今までとこれから～	23	第160回	防災塾・だるま会員の活動紹介(1)	20										2042	
第92回	東日本大震災に伴う警察活動等について	42	第161回	防災塾・だるま会員の活動紹介(2)	22	2043										
第93回	①神奈川県立・茅ヶ崎西浜高校での新しい防災教育の事例紹介 ②「被災地を巡る 1.17神戸」参加レポート	24	第162回	防災の課題と対策を考える（意見交換会）	38		2044									
第94回	東日本大震災の取材活動を通して～新聞記者の目線から見たもの ～	37	第163回	北海道胆振東部地震を体験して ～緊急地震速報と災害の要因についての考察～	19			2045								
	計	365	第164回	豪雨における災害に向けた行政サイドの対策 ～防災気象情報の活用事例～	16				2046							
第95回	東日本大震災から2年 被災地の今と声を地域に伝えよう	37	第165回	かながわの被災地支援と災害対策	25					2047						
第96回	横浜市防災計画「震災対策篇」2013および横浜市地震防災戦略	56		計	305						2048					
第97回	J-DAG（防災直後の行動ゲーム）	39	第166回	老練船長が語る「訓練で学ぶ防災・減災 ～訓練の大切さ～	30							2049				
第98回	地球探査船「ちきゅう」によって得られた科学成果の紹介	39	第167回	平成の地震対策を振り返って	34								2050			
第99回	地域密着で～消防団員確保対策成功事例～（横浜市消防団の取組み）	37	第168回	災害時に命を守る防災力 ～海上自衛隊八戸航空基地での東日本大震災支援活動～	29									2051		
第100回	関東大震災直後の小学校 ～横浜の事例から～	34	第169回	必ず発生すると言われる東海・と南海地震（私たちの命、生活は守 れるか）	28										2052	
第101回	被災者が語る関東大震災 ～新聞記者の体験記から～	32	第170回	3つの防災ゲームの紹介とその1つを体験	24	2053										
第102回	地震情報・津波警報のしくみ	29	第171回	感染症と危機管理について	38		2054									
第103回	風水害から命を守る特別警報	31	第172回	災害に強い学校・まちづくり ～学校職員、地域、保護者連携による防災まちづくり～	25			2055								
第104回	私は地域でこんな活動をしています	24	第173回	日本と世界各地の主に地震被災地を訪ねて	24				2056							
第105回	3.11から3年 被災地復興の現状と課題 ～経済学者の視点から～	24	第174回	災害対策本部はなぜ機能しないか？ ～地方自治体の災害対策本部 は、なぜ、適切かつ迅速な対応ができないかを分析～	33					2057						
	計	382		計	285						2058					
第106回	覚悟を決めて胸を磨け 伝えてからみた「3.11後の防災関連法制度 の改定」	37	第175回	阪神淡路大震災25年「被災地訪問報告」	25							2059				
第107回	火山と防災 ～富士山・箱根火山を例として～	24	第176回	新型コロナウイルス感染症から日本の医療政策を考える	45								2060			
第108回	自由な国 アメリカの光と影	19	第177回	新型コロナウイルス感染症を踏まえた、地域防災拠点の開設・運 営について	23									2061		
第109回	横浜市の火山対策	24	第178回	感染症対策における新型コロナウイルスの特徴と課題	26										2062	
第110回	首都圏を襲った台風と気象防災 ～藤原咲平の生涯から学ぶ～	29	第179回	東日本大震災の教訓と地域の持続性	17	2063										
第111回	江戸時代における横浜新田開発	24		計	136		2064									
第112回	歴史的規模土砂災害の事例紹介	55	第180回	日本列島の誕生と自然災害の理解	25			2065								
第113回	市民からの報告「岩手県山田町 4年目のジレンマ」	41	第181回	神奈川県大地の誕生と自然災害の理解	29				2066							
第114回	「地域を知ろう、考えよう、語り合おう！」 ～市民力アップ：谷中の家と「まちまちNet」の取組み・活動～	38	第182回	「災害を克服できる防災まちづくり・防災教育」の未来像を考える	33					2067						
第115回	「紀伊半島と津川を巡る災害と文化」のQ&Aゲーム	18	第183回	震度6強の首都直下地震に備えるための新震化推進	23						2068					
第116回	「阪神淡路大震災から20年・いのちの火」 ～報告：1.17ついでに参加者報告～	25	第184回	壊れない自助・共助の地域防災の構築を目指して	28							2069				
第117回	新ゲーム誕生！「防災めくり」の解説・ゲーム	26	第185回	総合治水から流域治水へ	23								2070			
	計	380		計	161									2071		
第118回	「突然起こった災害に対応するために」 ～あなたにもできる！心と身体の応急処置～	29	第186回	地区防災計画制度創設と現状・課題・展望 ～地区防災計画を理解する「つば」～	38										2072	
第119回	「中小企業の災害耐性強化のポイント」～環境変化が著しい今 成 長しながら生き残っていくための戦略とは？～	39	第187回	2019年台風19号浸水被害とその後から 防災まちづくりを考える	26	2073										
第120回	文科省「神奈川県に係る防災研究データベース活用」についての第 2回意見交換	30	第188回	地域のマルチハザード解析と対策構築	25		2074									
第121回	東日本大震災 4万人の声から生活再建の知恵と備えを	42	第189回	自主防災会会長の災害時の役割	26			2075								
第122回	神奈川県地震被害想定（平成27年3月）の概要について	38	第190回	海洋大気の相互作用が招く気象変動	33				2076							
第123回	関東大震災 神奈川県知事からのお知らせ！土砂災害を知る！	37		計	148					2077						
第124回	10周年記念事業第3弾前半「防災塾・だるま」への提言	34	第191回	関東大震災から百年 ～写真や絵巻で知る横浜の記憶～	23						2078					
第125回	10周年記念事業第3弾後半「防災塾・だるま」への提言からの意見 交換・まとめ	31	第192回	地域の備えは自助と共助の見守り合いで ～「おとなり場システム」の仕組みづくり～	32							2079				
第126回	巨大災害と失敗の教訓 ～「失敗の本質-日本軍の組織的研究」から学ぶこと～	33	第193回	横浜の関東大震災を学ぶまち歩き（園内・日本大通りコース）	12								2080			
第127回	横浜の防災活動紹介	26	第194回	「よこはま防災力向上マンション認定制度」について ～周知の認定を取得した会員からの報告～	25									2081		
第128回	広島土砂災害被災地レポートと神戸1.17「追悼のつどい」	30	第195回	災害時の女性と子どもの安全 ～災害時の性暴力被害とその対応～	22										2082	
第129回	最近の地震災害と都市災害	26		計	114	2083										
	計	395	第196回	能登半島地震現地で活動した会員からの報告	32		2084									
第130回	事例から学ぶ「防災まちづくり」	31	第197回	山国誕生の謎～東西圧縮の原因～ について	23			2085								
第131回	「地域防災対策DB」～3年の報告と今後の展望～	41	第198回	「能登半島地震を踏まえた地盤の問題と耐震化推進」について	22				2086							
第132回	青森県民会議はこう考える ～市民の視点とデータで防災・減災の課題をとらえる～	22	第199回	いのちとくらしを守る ～防災と福祉の融合～	27					2087						
第133回	岩手県山田町5年目の今	25	第200回	熊鷹の会200周年を基盤とした防災の未来への提案	21						2088					
第134回	関東大震災と耐震建築 ～赤煉瓦から鉄筋コンクリートへ～	21	第201回	「家しい防災コンテンツ」発表交流	19							2089				
第135回	水循環のシミュレーションから災害を考える	26	第202回	防災庁創設に向けて、市民と行政の対話を深める一歩に	21								2090			
第137回	横浜市のけが地総合対策	26		計	165									2091		
第138回	KU東北ボランティア駅伝	31	第203回	海外の避難所環境改善に学ぶ	26										2092	
第139回	私たちの地域ではこんな活動をしています	24	第204回	「防災」の限界と可能性 ～取材の現場から～	21	2093										
第140回	横浜市立北綱島小学校 防災教育の取り組み	48	第205回	避難所運営の初動体制は出来ていますか？	17		2094									
第141回	神戸から学ぶ 災害から22年目	16		計	64			2095								
	計	311	205回までの延べ参加人数：3857人													

防災まちづくり談義の会 205回までの延べ参加者数 3857人

18	取組の成果	HP アクセス統計 会員の声 総括的書籍公開編集	Web	旧 HP	https://darumajin.sakura.ne.jp/17katsudoukiroku_enomoto_taininkinenshi/index.html
----	-------	--------------------------------	-----	---------	---

ホームページアクセス数 2025年9月現在 58,888件 (旧HP:参考値=ロボット混入の可能性あり)



○会員の声 (荏本先生大退任記念誌から)

☞ [稲垣氏の J-COM 取材動画紹介 \(会員レポート\)](#)

●「地元で自主防災組織の実践」

稲垣博正さん

(会員番号：132 横浜市旭区)

2014 年秋の「養成講座」に初めて参加し、防災の大切さに目覚め、12 月の「だるま忘年会」に出席し、その場で会員登録したのが「だるま」と荏本先生との関わりの始まりでした。



だるまで学んだ「知識と事例」を自分の自治会に持ち帰り、自治会で防災勉強会を主催し仲間を募り、自主防災組織をゼロから立ち上げ、年 1 回の全戸防災アンケート、互近助安否確認の仕組み、毎年の防災訓練と「だるまの教え」を地域で実践してきました。

この成果を養成講座で 2 回発表し、その

縁で自治会の防災訓練が TV 取材され、区の HP にも掲載されるまでになった事も「だるま仲間の知恵」と「荏本先生の教え」の賜物です。

「だるま」が地域の自主防災活動の「実践活動」の支えとして発展して行くことを祈念し、今後とも先生の変わらぬ「だるま愛」で我々をご指導いただきます様お願いします。

☞ [稲垣氏プレゼン資料](#)

○書籍としての出版をめざす 現在新HPで公開編集中 2025年9月～

☞ <https://bosaijuku-daruma.com/bosai-text250904/>



『命を守る防災の教科書』のドラフトを公開

本書は、防災塾・だるま「防災まちづくり談義の会」200会の叢智を結集し「防災立国」を目指す社会の共有知としてまとめたものです。今回の公開は「会員レポート」として行っており、皆様からの修正案・アイディア・ご感想をいただきながら反映し、内容を随時アップデートしてまいります。最終的には、防災塾・だるまの公式資料、さらには書籍としての出版を目指しています。

ぜひ以下のページをご覧ください、ご参加ください。

📖 [「命を守る防災の教科書」の全文公開・公開編集のページ](#)

☞ [「命を守る防災の教科書」\(編集中\)全文ドラフト・図表なし](#)

☞ [「命を守る防災の教科書」編集参加フォーム](#)